

# ダイヤフラムバルブ 15 型

## 電動式 S 型

### 125、150mm

## 取扱説明書



このたびは、弊社製品をご採用いただきまして、ありがとうございます。

この取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用いただくための重要な事柄について記載していますので、製品を取り扱う前に必ずお読みください。なお、お読みになられた後は、お使いになられる方がいつでも見ることが出来る場所に必ず保管していただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 旭有機材株式会社

**-安全にご使用いただくために-**



この取扱説明書は、弊社製品を取り扱われる方が当社製品、電気、機械、制御等の基本的な知識をお持ちであることを前提として書かれており、取扱い内容によっては専門用語を含んでいます。

この取扱説明書を熟読し、内容を十分に理解され、安全事項を順守して正しく使用してください。



この取扱説明書では、人的障害や物的損害の状況、及び規模をお知らせするために、特に重要とされる事象について「警告」「注意」「禁止」「強制」の内容をマークとともに区分して記載しています。

順守しなかった場合、思わぬ障害や損害が発生する可能性がありますので、必ず順守されますよう、よろしくお願いいたします。

**<警告・注意表示>**

 <b>警告</b>	製品の取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負うことが想定される内容」です。
 <b>注意</b>	製品の取り扱いを誤った場合、「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容」です。

**<禁止・強制表示>**

 <b>禁止</b>	製品の取扱いにおいて、「行ってはいけない内容」で禁止します。
 <b>強制</b>	製品の取扱いにおいて、「必ず行っていただく内容」で強制します。

## 目次

<b>1. 弊社製品の保証内容について</b> .....	<b>4</b>
適用対象.....	4
保証期間.....	4
保証範囲.....	4
免責事項.....	4
<b>2. 安全上のご注意</b> .....	<b>5</b>
開梱・運搬・保管.....	5
製品の取り扱い.....	6
<b>3. 各部品の名称</b> .....	<b>8</b>
<b>4. 製品の仕様</b> .....	<b>9</b>
型番表.....	9
最高許容圧力と温度の関係.....	9
アクチュエータ.....	10
配線図.....	11
<b>5. 配管方法</b> .....	<b>12</b>
<b>6. サポート設置方法</b> .....	<b>14</b>
<b>7. 電気配線方法</b> .....	<b>15</b>
<b>8. 試運転方法</b> .....	<b>17</b>
<b>9. 部品交換のための分解/組立方法</b> .....	<b>20</b>
<b>10. リミットスイッチの調整方法</b> .....	<b>22</b>
<b>11. 点検項目</b> .....	<b>24</b>
日常点検.....	25
定期点検.....	27
<b>12. 不具合の原因と処置方法</b> .....	<b>29</b>
<b>13. 残材・廃材の処理方法</b> .....	<b>33</b>
<b>お問合せ先</b> .....	<b>34</b>

## 1. 弊社製品の保証内容について

契約書、仕様書等に特記事項のない場合、弊社が製造・販売するバルブ等の配管材料製品（以下、「対象製品」といいます。）の保証内容は以下のとおりとなります。

### 適用対象

この保証は対象製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外でご使用になられる場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

### 保証期間

保証期間は、納入後 1 年間といたします。

### 保証範囲

上記保証期間中に弊社の責任による故障や不具合が生じた場合は、代替品との交換、または修理を無償で実施いたします。

ただし、保証期間内であっても、次に該当する場合は保証の対象外（有償でのご対応）といたします。






- ▶ 施工・据付・取扱い、及びメンテナンス等において、仕様書・取扱説明書等に記載された保管・使用条件や注意事項等が守られていない場合。
- ▶ お客さまの装置やソフトウェアの設計等、対象製品以外に起因した不具合の場合。
- ▶ 弊社以外による製品の改造・二次加工に起因した不具合の場合。
- ▶ 取扱説明書等に記載された定期点検や消耗部品の保守・交換が正常に実施されていれば回避できたと認められる不具合の場合。
- ▶ 部品をその製品の本来の使い方以外にご使用になられた場合。
- ▶ 弊社出荷時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障や不具合の場合。
- ▶ 天災・災害等の弊社の責任ではない外部要因による不具合の場合。

### 免責事項




- ▶ 弊社製品の故障に起因する二次災害（装置の損傷、機会損失、逸失利益等）、及びいかなる損害も補償の対象外とさせていただきます。
- ▶ 弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体、または財産を侵害するおそれのある設備等にご使用になられる場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承願います。
- ▶ 弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願いいたします。お客様がこれらを怠ったことによりお客様に損害が発生した場合、弊社は一切の責任を負わないものとします。ただし、お客さまに生じた損害が、弊社製品の欠陥による場合はこの限りではありません。

## 2. 安全上のご注意

### 開梱・運搬・保管

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <p>▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。</p>
 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 投げ出しや落下、打撃などによる衝撃を与えないでください。</p> <p>▶ ナイフや手かぎなどの鋭利な物体で、引っかきや突き刺しなどをしないでください。</p> <p>▶ ダンボール梱包は、荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。</p> <p>▶ コールタール、クレオソート（木材用防腐剤）、白あり駆除剤、殺虫剤、塗料などに接触させないでください。</p> <p>▶ バルブを運搬する場合、ハンドル掛けはしないでください。</p>
 <b>強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 配管直前までダンボールに入れたまま、直射日光を避けて、屋内（室温）で保管してください。また、高温になる場所での保管も避けてください。（ダンボール梱包は水などに濡れると強度が低下します。保管や取扱いには十分注意してください）</p> <p>▶ 開梱後、製品に異常がないか、仕様と合致しているかを確認してください。</p>

## 製品の取り扱い

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アクチュエータは分解しないでください。</li> <li>▶ 運転中の可動部には手を触れないでください。 (手や腕などを巻き込むおそれがあります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p><b>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 弊社樹脂製配管材料に陽圧の気体を使用される場合は、水圧と同値であっても圧縮性流体特有の反発力により、危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆するなど、周辺への安全対策を必ず施してご使用願います。なお、ご不明な点がございましたら、別途、弊社にお問い合わせください。</li> <li>▶ 配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合は、必ず水圧で確認してください。止むを得ず気体で試験を行う場合は、事前に弊社へご相談ください。</li> <li>▶ ご使用前に使用電源と銘板の電圧を確認してください。異電圧の場合、機器損傷・作動不良を起こすおそれがあります。</li> <li>▶ 手動操作はアクチュエータがモータによって作動していないことを確認後、操作を行ってください。</li> </ul>

**⚠ 注意**

**🚫 禁止**

**バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。**

- ▶ バルブに乗ったり、重量物を載せたりしないでください。
- ▶ 火気や高温な物体に接近させないでください。
- ▶ 水没する可能性のある場所では、使用しないでください。
- ▶ バルブは据え付ける場所の雰囲気にご注意ください。特に潮風、腐食性ガス、化学薬液、海水、蒸気などにさらされる所は避けてください。
- ▶ バルブに大きな振動を与えないでください。
- ▶ 耐水形仕様以外は土砂や水たまりの中にアクチュエータを放置しないでください。

**! 強制**

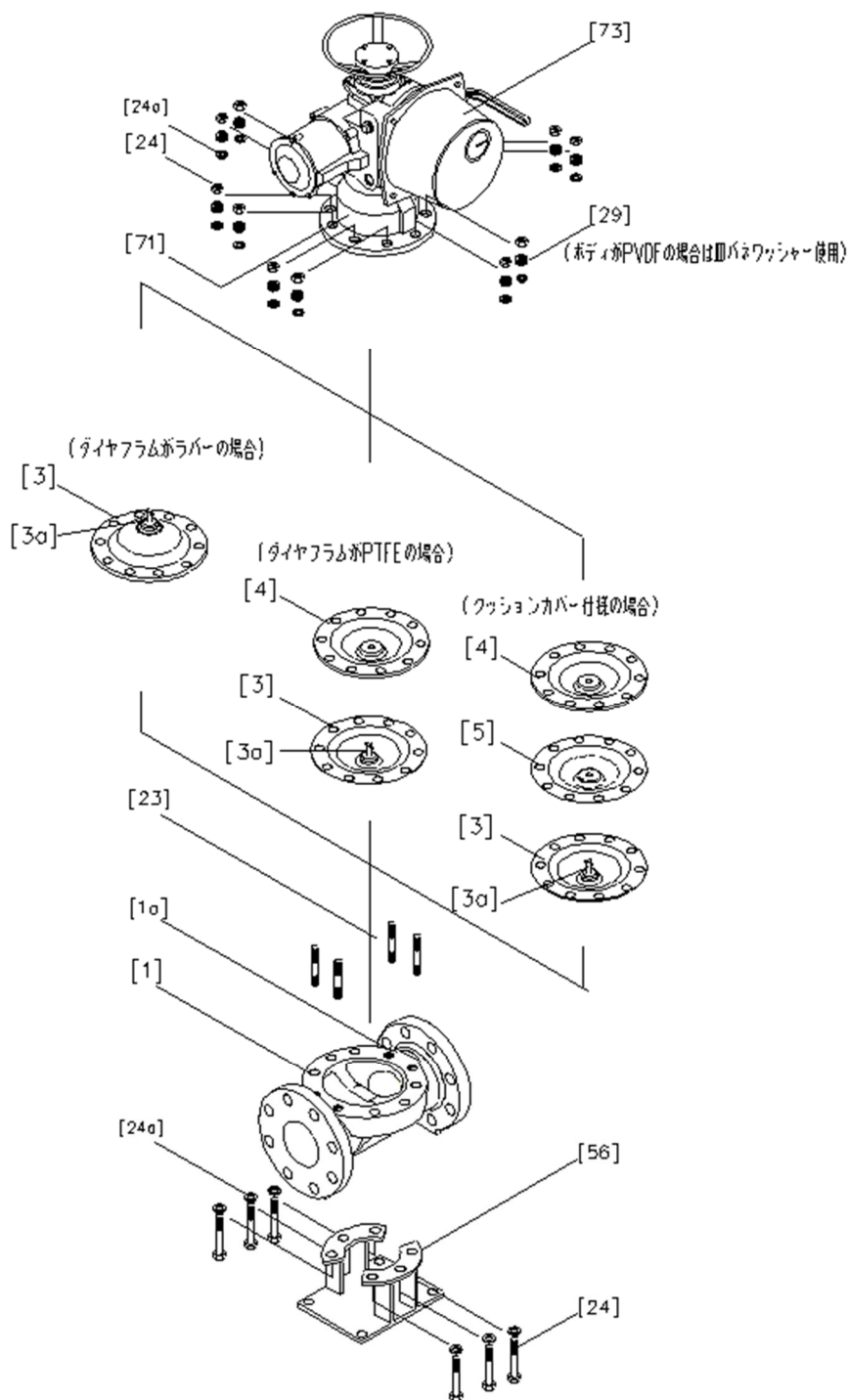
**ケガをするおそれがあります。**

- ▶ 保守点検が出来るスペースを十分確保して配管してください。

**バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。**

- ▶ 流体の圧力と温度は、許容範囲内で使用してください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です)
- ▶ 使用条件に適した材質のバルブを使用してください。(薬液の種類によっては部品が侵されるおそれがありますので、詳細については弊社へ事前にご相談ください)
- ▶ 結晶性物質を含んだ流体は、再結晶しない条件で使用してください。
- ▶ 常時、水や粉じんなどが飛び散る場所、及び直射日光のあたる場所は避けるか、または全体を覆うカバーなどでバルブを保護してください。
- ▶ 「11.点検項目」を参照して、定期的にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化にご注意ください。
- ▶ 保管・使用中の温度変化やクリープによりダイヤフラム部(ボンネットとボディの間)の締め付けボルト・ナットに緩みが生じる場合があります。点検の上、ボルト・ナットを、「5. 配管方法」の値まで対角線上に増締めを行ってください。
- ▶ バルブ設置時には適切なバルブサポートを施してください。  
(バルブ本体及び配管に無理な力が加わり破損などを引き起こすおそれがあります)
- ▶ 必ず表示された製品仕様内で使用してください。
- ▶ 異臭や発熱、発煙した場合は、直ちに供給電源を切ってください。異常が認められた場合は、必ずお買い上げの販売店、または弊社まで点検をご相談ください。
- ▶ 手動操作は、付属のハンドルで行ってください。
- ▶ 爆発性雰囲気の中で使用する際は、アクチュエータが防爆仕様に適合していることを確認してください。
- ▶ 据付場所の周囲温度は、-10~50°Cの範囲内にしてください。
- ▶ 腐食性ガスや雰囲気の悪い場所は避け、全体を覆うカバーなどを設けてください。

## 3. 各 부품の名称



[1]	ボディ	[5]	クッションカバー	[56]	取付台(A)
[1a]	埋込ナット	[23]	植込ボルト・ナット	[71]	ボンネット(B)
[3]	ダイヤフラム	[24]	ボルト・ナット	[73]	アクチュエータ(電動)
[3a]	ダイヤフラム埋込金具(A)	[24a]	ワッシャー		
[4]	クッション	[29]	皿バネワッシャー(ボディが PVDF の場合)		



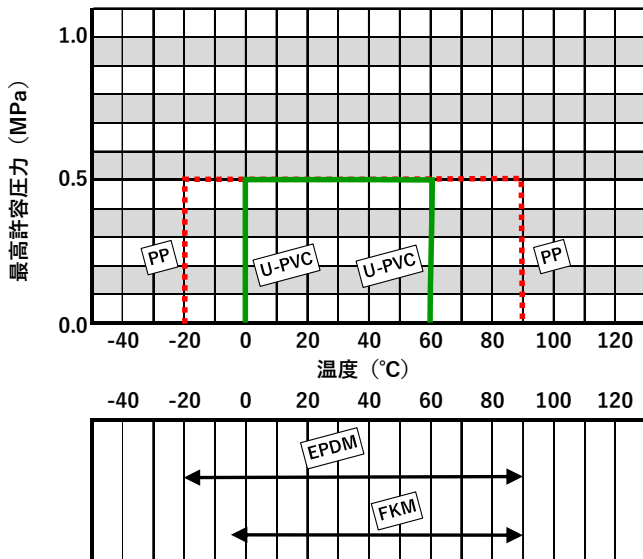
## 4. 製品の仕様

### 型番表

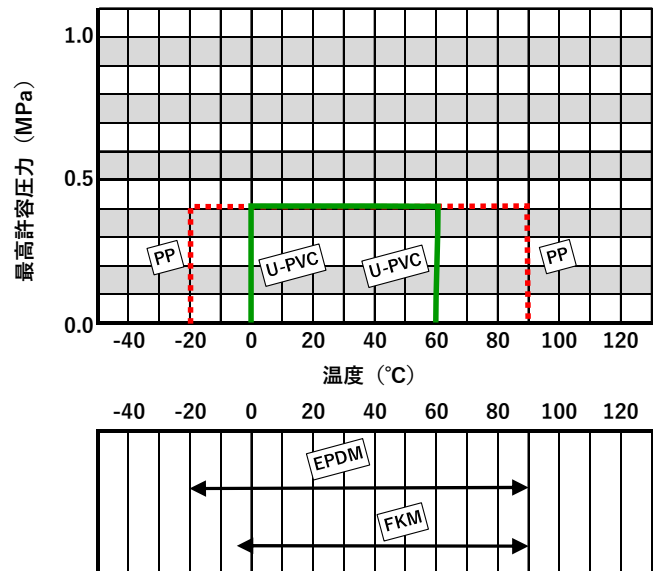
駆動	型式	駆動部型式	作動方式 電圧	ボディ材質	シール材質	接続	規格	呼び径	超純シリーズ
A	15	S	*	*	*	F	*	***	*
A 自動弁	15 15型	S S型	3 三相200V 4 三相400V	U U-PVC P PP F PVDF	E EPDM T PTFE V FKM	F フランジ形	J JIS 10K 5 JIS 5K D DIN A ANSI	125 125mm 150 150mm	1 禁油品

### 最高許容圧力と温度の関係

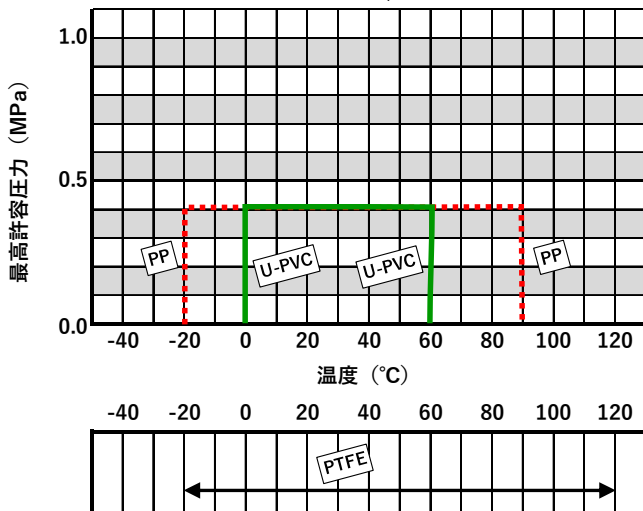
ダイヤフラムバルブ15型 電動式S型  
ラバー 125mm



ダイヤフラムバルブ15型 電動式S型  
ラバー 150mm



ダイヤフラムバルブ15型 電動式S型  
PTFE 125,150mm

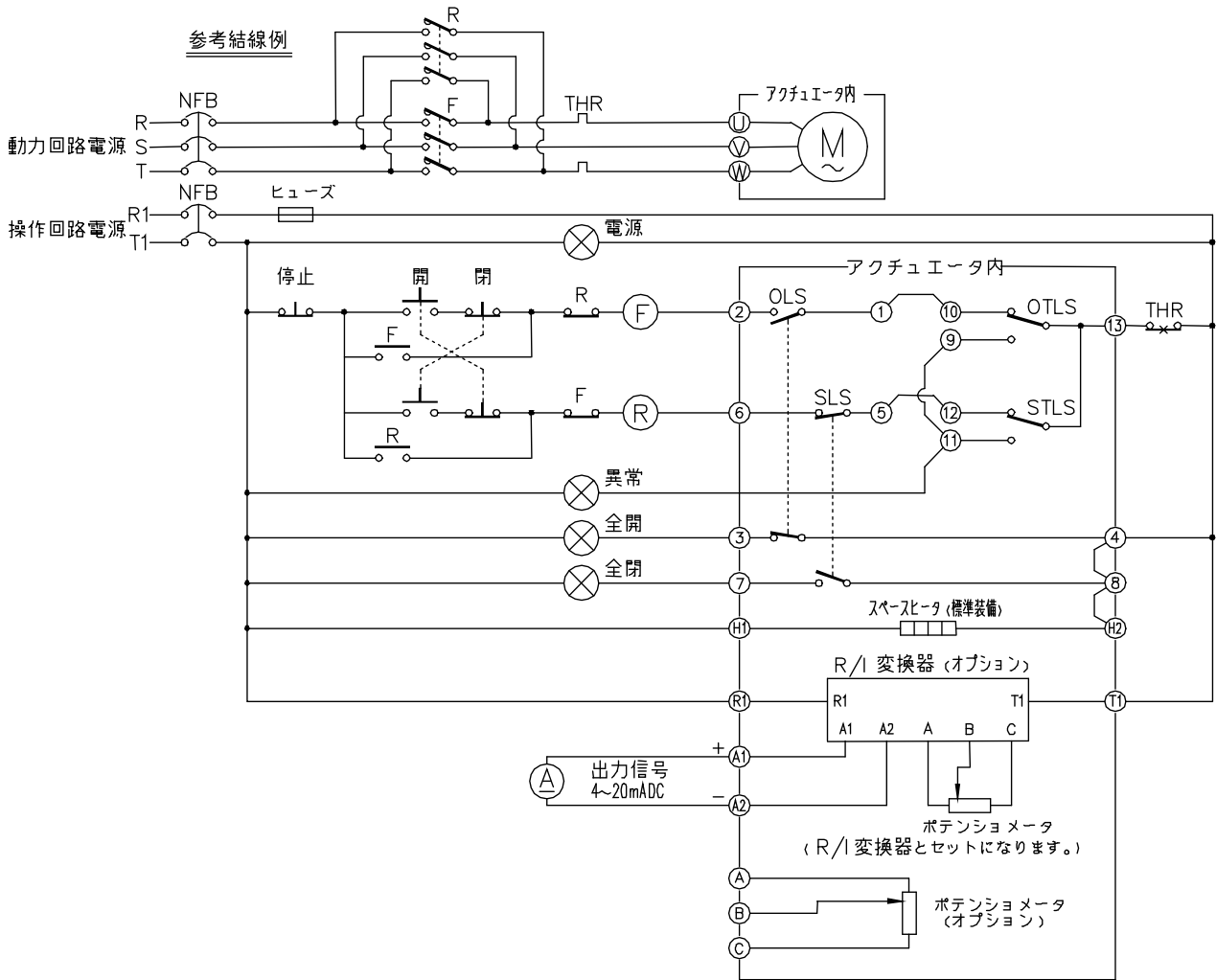


## アクチュエータ

### 仕様一覧表

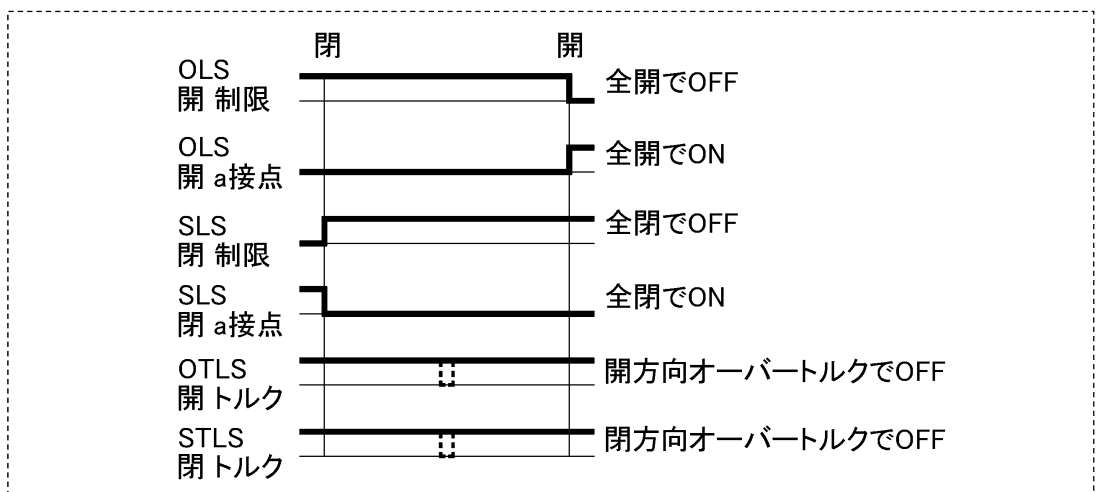
適合呼び径 (mm)		125	150
アクチュエータ型式		LTRM-01	LTMD-01
開閉時間(秒)	50Hz	29	54
	60Hz	24	46.5
保護構造		IP55	
モータ起動電流 (A) 50/60Hz	AC200V	8.8 / 8.3	8.0 / 7.4
	AC400V	4.4 / 4.1	4.0 / 3.7
モータ定格電流 (A) 50/60Hz	AC200V	3.0 / 2.4	2.5 / 2.2
	AC400V	1.5 / 1.2	1.3 / 1.1
手動操作ハンドル回転数		10	
消費電力(W) 50 / 60Hz	AC200V	397 / 361	650 / 610
	AC400V	397 / 361	670 / 610
ケーブルコネクタ呼び径		2-G1	操作回路：2-G1、モータ回路：G3/4
モータ定格出力(W)		400	
モータ絶縁種別		B 種	
モータ時間定格		15 分	
リミットスイッチ容量		AC250V 5A	
モータ極数(P)		4	
スペースヒータ定格出力(W)		10	
ポテンショメータ 1~3 間 最大印加電圧(V)	100 Ω	15	
	200 Ω	20	
	500 Ω	30	
	1K Ω	45	

## 配線図









注記：配線図は開動作終了時を示しています。

## スイングチャート



5. 配管方法

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <p>▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。</p>
 <b>強制</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <p>▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。</p> <p>▶ 配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。</p>

 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 流体にゴミなどの異物の混入した状態でバルブを開閉しないでください。</p>
 <b>強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ Uバンドなどで配管サポートを取られる際は、締め過ぎに注意してください。</p> <p>▶ 取付けの際は、配管やバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。</p> <p>▶ バルブ取付け後においても砂などの異物がパイプライン内に残るおそれがありますので、配管内を洗浄した後、バルブの開閉をしてください。</p> <p>▶ 接続フランジは全面座のものを使用してください。</p> <p>▶ 相互フランジ規格に違いがないように確認してください。</p> <p>▶ 必ずシール用ガスケット(AV パッキン)、ボルト、ナット、ワッシャーを使用し所定の締付けトルク値で締付けてください。 (AV パッキン以外の場合は締付トルク値が変わります)</p>

準備するもの ▶ トルクレンチ ▶ AV パッキン

**[手順]**

- 1) フランジ間に AV パッキンをセットします。
- 2) 連結フランジ側からワッシャーとボルトを入れ、バルブ側からワッシャーとナットを入れて、手による仮締めを行います。

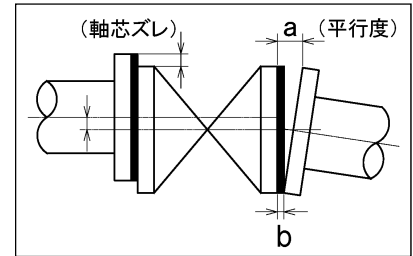
## ⚠ 注意

### ❗ 強制

バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。

▶ フランジ面の平行度及び軸芯ズレの寸法は下記の表の数値以下にしてください。

呼び径 (mm)	軸芯ズレ	平行度 (a-b)
125、150	1.0mm	1.0mm



- 3) 徐々に規定トルク値まで対角線上(図 1 参照)にトルクレンチで締め付けます。

## ⚠ 注意

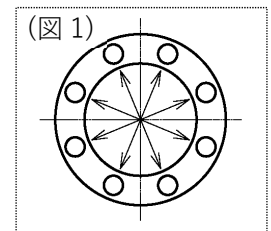
### ❗ 強制

バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。

▶ 接続フランジのボルト・ナットは対角線上に規定トルクで締め付けてください。

規定トルク値 単位：N・m {kgf・cm}

呼び径	125mm	150mm
トルク値	40.0 {408}	40.0 {408}



6. サポート設置方法

**⚠️ 注意**

<b>🚫 禁止</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ ポンプ周りの配管でバルブに大きな振動を起こさせないでください。 (故障・破損するおそれがあります)</p>
<b>❗ 強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ バルブサポートを設置してください。 (バルブ本体及び配管に無理な力が加わり破損などを引き起こすおそれがあります)</p>

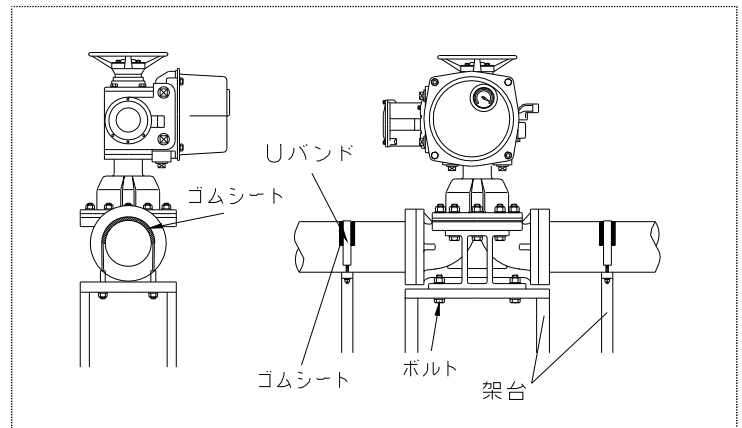
- 準備するもの ▶ スパナ ▶ Uバンド(ボルト付) ▶ ボルト・ナット(M20) ▶ ゴムシート

**水平配管**

バルブに設けている取付台[56]と架台をボルトで固定します。

パイプは上部にゴムシートを敷き、Uバンドで固定します。

(サポート設置例)

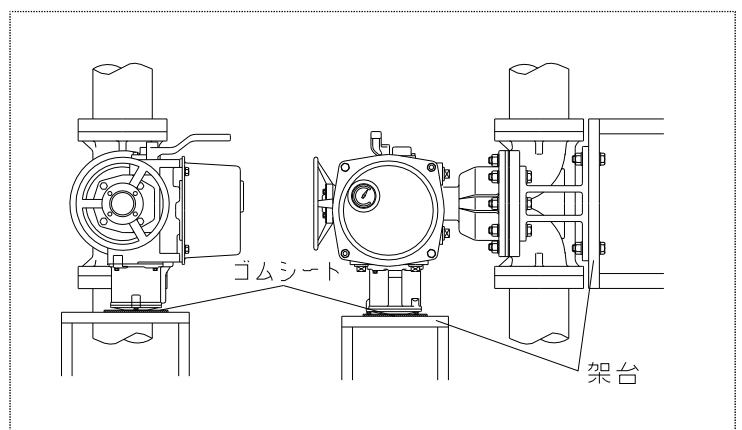


**垂直配管**




バルブに設けている取付台[56]と架台をボルトで固定します。




アクチュエータ部にゴムシートを敷き、架台で固定します。

(サポート設置例)



7. 電気配線方法

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通電状態で結線・離線を行わないでください。また、基板上の他の部品や端子台配線部分に触らないでください。(感電や機器損傷のおそれがあります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p>漏電による感電や火災などを引き起こすおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アース配線は必ず行ってください。 (アースが不良だと漏電による感電、火災などを引き起こすおそれがあります)</li> </ul> <p><b>感電や機器損傷のおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 調整や点検する場合は、手の水気や油分がないようにしてください。</li> </ul>

 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 無電圧リミットスイッチは、接点容量以上の負荷をかけないでください。また微小負荷(1mA~100mA、5V~30V)で使用される場合は弊社へご相談ください。</li> <li>▶ 複数(2台以上)の電動式バルブを直列に接続しないでください。また、開閉スイッチ(またはリレー接点)は電動式バルブ1台ごとに設けてください。</li> <li>▶ 高電圧線やインバーターなどのノイズが発生するもの、磁気が発生するものの近くでは使用しないでください。(誤動作や故障の原因となります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 結線作業を行うときは、絶縁不良のないことを確認してください。</li> <li>▶ 各部のフタは確実に締め付けてください。 (雨水・粉じんなどが浸入し、故障の原因になります)</li> <li>▶ 結線は必ず配線図にしたがい正しく結線してください。また配線後必ず接続が確実にされているか確認後、電源を入れてください。(誤作動や故障の原因になります)</li> <li>▶ 各フタ部は、Oリングによりシールされています。配線時など、カバーを外し再度取り付ける場合、Oリングが所定の位置に必ずセットされ確実にシールされていることを確認してください。(シールが不十分だとアクチュエータ内部に雨水などが侵入し、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ 屋外など、雨水、水滴のかかる場所で使用される場合は、アクチュエータの配線口から雨水などが浸入しないようにしてください。(アクチュエータ内部に雨水などが侵入、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ ご使用前に使用電源と、銘板の電圧を確認してください。異電圧の場合、機器損傷・作動不良を起こすおそれがあります。</li> </ul>

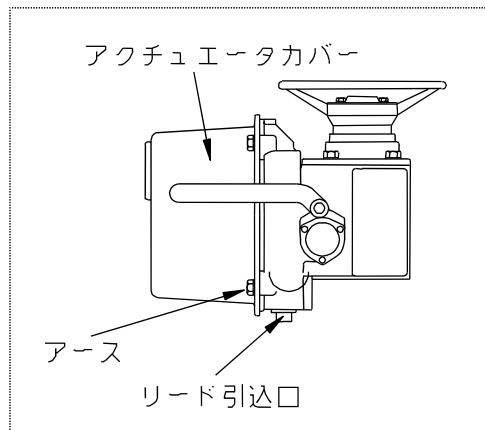
準備するもの	▶ プラスドライバー	▶ ワイヤーストリッパー
	▶ 圧縮端子	▶ コネクター
	▶ 電子圧着工具	

## [手順]

- 1) アクチュエータカバーを固定しているねじをスパナでゆるめ、カバーをはずします。
- 2) リード引込口のプラグをスパナで外します。
- 3) リード引込口にコネクターを取り付けます。
- 4) コネクターにケーブルを通します。
- 5) ワイヤーストリッパーでケーブルの外皮をむきます。
- 6) 端子圧着工具でリード線に圧着端子を付けます。
- 7) 端子台にプラスドライバーで 15 頁に従って結線します。  
※ねじはしっかりと締め付けてください。

(漏電や感電のおそれがあります)



- 8) コネクターを締め付けます。  
※コネクターはしっかりと締め付けてください。(漏電や感電のおそれがあります)
- 9) アクチュエータカバーを固定しているねじをスパナで締め付け、カバーを取り付けます。
- 10) アースを取り付けます。







## 8. 試運転方法

### 警告

<p> <b>禁止</b></p>	<p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通電状態で結線・離線を行わないでください。また、基板上の他の部品や端子台配線部分に触らないでください。(感電や機器損傷のおそれがあります)</li> <li>▶ アース配線は必ず行ってください。 (アースが不良だと漏電による感電、火災などを引き起こすおそれがあります)</li> <li>▶ 運転中の可動部には、絶対に手を触れないでください。 (手や腕などを巻き込むおそれがあります)</li> </ul>
<p> <b>強制</b></p>	<p><b>感電や機器損傷のおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 調整や点検する場合は、手の水気や油分がないようにしてください。 (感電や機器損傷のおそれがあります)</li> </ul> <p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 手動操作は、アクチュエータがモータによって作動していないことを確認後、操作を行ってください。</li> </ul>

### 注意

<p> <b>禁止</b></p>	<p><b>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 高電圧線やインバーターなどのノイズが発生するもの、磁気が発生するものの近くでは使用しないでください。(誤動作や故障の原因となります)</li> </ul>
<p> <b>強制</b></p>	<p><b>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 結線作業を行うときは、絶縁不良のないことを確認してください。 (配線が損傷するおそれがあります)</li> <li>▶ 各部のフタは確実に締め付けてください。 (雨水・粉じんなどが浸入し、故障の原因になります)</li> <li>▶ 結線は必ず配線図にしたがい正しく結線してください。また配線後必ず接続が確実にされているか確認後、電源を入れてください。(誤作動や故障の原因になります)</li> <li>▶ フタ部は、Oリングによりシールされています。配線時など、カバーを外し再度取り付ける場合、Oリングが所定の位置に必ずセットされ確実にシールされていることを確認してください。(シールが不十分だとアクチュエータ内部に雨水などが侵入し、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ 屋外など、雨水、水滴のかかる場所で使用される場合は、アクチュエータの配線口から雨水などが浸入しないようにしてください。 (アクチュエータ内部に雨水などが侵入、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ 異臭、発熱、発煙した場合は、直ちに供給電源を切ってください。(異常を感じたまま使用すると火災が発生するおそれがあります。異常が認められた場合は必ずお買い上げの販売店、または弊社まで点検をご相談ください)</li> </ul>

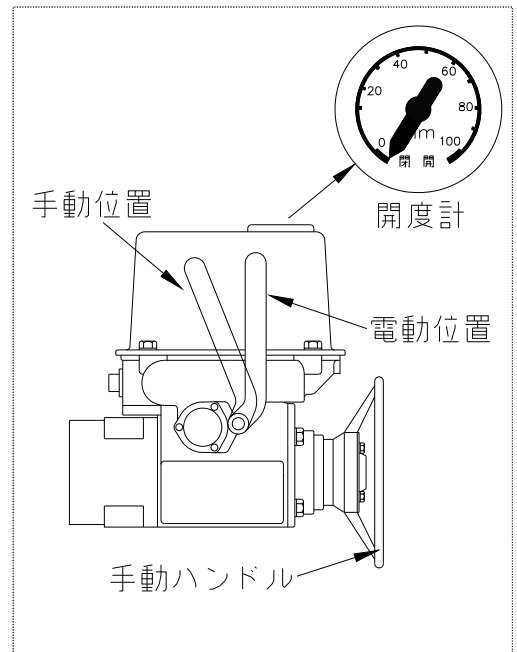
## 手動操作

<b>⚠ 注意</b>	
<b>🚫 禁止</b>	<p>バルブが故障する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全開・全閉位置からさらに、無理に手動ハンドル(オプション品)をまわさないでください。</li> <li>▶ LTRM 及び LTMD は自動復帰型です。切り替えレバーの手動操作では、電動側への復帰はできません。電動側への手動操作はしないでください。</li> </ul>
<b>! 強制</b>	<p>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ LTRH は手動復帰型です。切り替えレバーを手動で電動位置にしてください。</li> </ul>

準備するもの ▶ 六角レンチ(5mm)または手動ハンドル(オプション品)

### [手順]

- 1) 切り替えレバーを手動側におしてください。円滑に切り替わらないときは、手動ハンドルをどちらかに廻しながら切り替えレバーをおしてください。  
※全開「O」・全閉「S」からさらに、無理に手動ハンドルをまわさないでください。(故障します)
- 2) 開度計を見ながら手動ハンドルを廻します。
  - ▶ 右回転(時計回り) → 閉方向
  - ▶ 左回転(反時計回り) → 開方向
- 3) 電源を入れ、『開』または『閉』のボタンを押してください。(切り替えレバーは電動位置へ自動的に復帰します)



## 電動操作

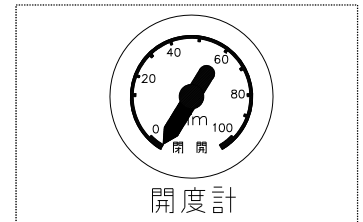
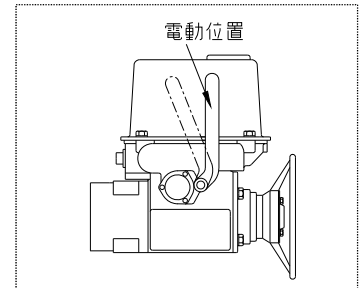
### ⚠ 注意






バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。  
 ▶ アクチュエータカバーを開けたままにしないでください。  
 (端子に接触すると感電します)



### [手順]

- 1) 電源を入れます。
- 2) 開閉スイッチを操作し開または閉の状態にして、バルブの表示方向と作動方向が合致していることを確認します。  
 合致していない場合には、配線図(13 頁参照)を確認の上、もう一度 1) から操作を行ってください。
- 3) 全開「O」または全閉「S」にして電源を切ります。



9. 部品交換のための分解/組立方法

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アクチュエータは分解しないでください。</li> </ul> <p>感電や機器損傷のおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通電状態で結線・離線を行わないでください。</li> <li>▶ また、基板上の他の部品や端子台配線部分に触らないでください。</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p>ケガをするおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。</li> <li>▶ 配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。</li> </ul> <p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ バルブの取替えや部品交換の際には、配管内の流体を完全に抜いてください。</li> <li>▶ また流体が抜けない場合は、流体の圧力をゼロにしてください。</li> </ul>

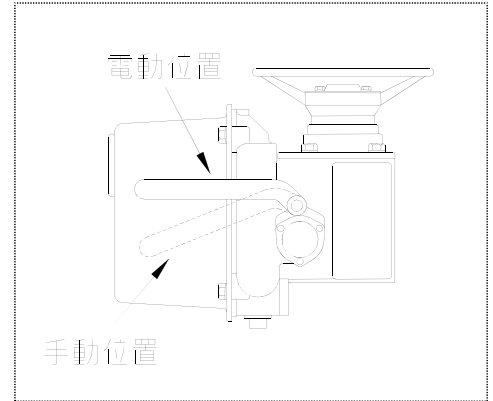
 <b>注意</b>	
 <b>強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各部のフタは確実に締め付けてください。 (雨水、粉じんなどが浸入し、故障の原因になります)</li> <li>▶ アクチュエータは出荷時に調整していますが、設定変更や調整が必要な場合は各取扱説明書にしたがい正しく行ってください。(誤作動や故障の原因になります)</li> <li>▶ 各フタ部は、Oリングによりシールされています。配線時など、カバーを外し再度取り付ける場合、Oリングが所定の位置に必ずセットされ確実にシールされていることを確認してください。(シールが不十分だとアクチュエータ内部に雨水などが侵入し、感電や故障の原因となります)</li> </ul>

： 準備するもの ！▶ スパナ                      ▶ 保護手袋                      ▶ 保護眼鏡

## <分 解>

### [手順]

- 1) 配管内の流体を完全に抜きます。
- 2) バルブを電動操作または手動操作で全閉の状態にします。
- 3) 電源を切ります。
- 4) ボルト・ナット[24]を緩めて取り外します。
- 5) アクチュエータ[73]を持ち上げて取り外します。
- 6) ダイヤフラム[3]を左回転(反時計回り)させて取り外します。

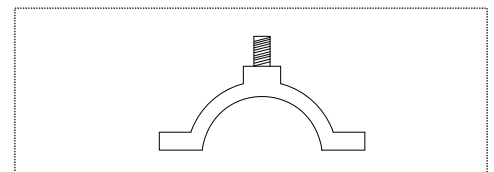


## <組 立>

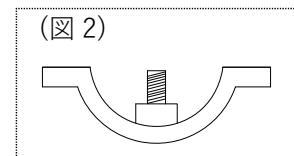
### [手順]

- 1) ダイヤフラム[3]を図1の形状にします。
- 2) ダイヤフラム[3]を右回転(時計回り)させて取り付けます。
- 3) ダイヤフラム[3]は、ねじ部が止まるまで締め付けた後、弁座シールリップの方向とコンプレッサーの押さえ面が一致するまで左回転(反時計回り)させます。
- 4) ダイヤフラム[3]を図2の形状にします。
- 5) 開度計を見ながら手動ハンドルを左回転(反時計回り)させ、全開の状態にします。
- 6) アクチュエータ[73]をボディ[1]に乗せます。
- 7) ボルト・ナット[24]を取付けて、ボディ[1]とボンネット[71]を締め付けます。  
(ボディ締め付けトルクは表1参照)

(図1)



(図2)



(表1)ボディ締め付けトルク値

単位：N・m {kgf・cm}

呼び径 ダイヤフラム	125mm	150mm
ラバー	45 {459}	45 {459}
PTFE	45 {459}	45 {459}

## 10. リミットスイッチの調整方法

### 警告

#### 禁止

重傷を負うおそれがあります。

- ▶ リミットスイッチへの結線・離線は通電状態では行わないでください。  
(感電したり機械が突然始動したりします)

### 注意

#### 禁止

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ アクチュエータカバーを開放して放置または使用しないでください。  
(水、粉じんなどが浸入し動作不良になることがあります)

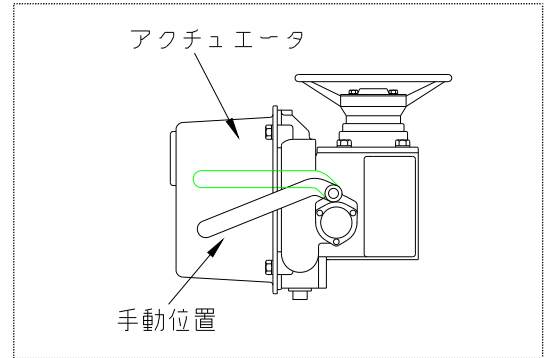
#### 強制

バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。

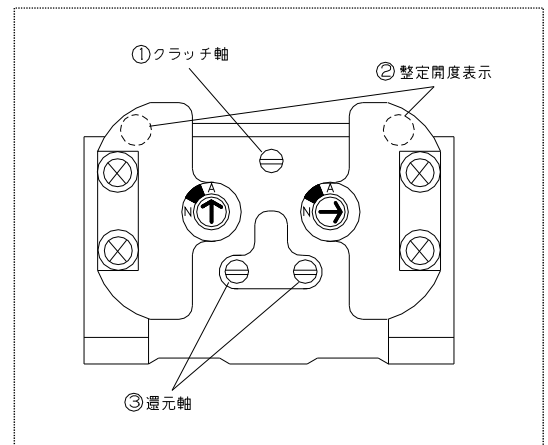
- ▶ リミットスイッチを 1mA~100mA、5V~30V で使用される場合は、弊社へご相談ください。

## [手順]

- 1) 電源を切り配管内の流体を完全に抜いた後、アクチュエータカバーをスパナで緩めて取り外します。
- 2) 調整する開度(全開または全閉)へ手動操作(20 頁参照)を行います。
- 3) クラッチ軸に専用ハンドルを差込み、押して 30 度ほど廻してクラッチ軸が引込んだ状態にします。  
※この操作を行わないで次の操作に移るとリミットスイッチ機構を破損するおそれがあります。
- 4) 移動した開度に割当てられたスイッチ(整定開度表示[2]で確認します。例えば全開のときは「0」のスイッチ)を整定します。
- 5) 該当するスイッチに最も近い還元軸[3](図 1)に専用ハンドルを差込み、廻す回数が少なくて済む方向に還元軸を廻しスイッチの矢印が N から A または A から N に転換するところを探します。
- 6) 矢印を N の状態にして、N から A へ転換させたところで専用ハンドルを抜き取ります。
- 7) 専用ハンドルを再びクラッチ軸に差込み、ハンドルを廻してクラッチ軸を元に戻します。
- 8) リミットスイッチがバルブの動作に追従しているか手動操作(20 頁参照)により確認します。
- 9) アクチュエータカバーを取り付けて、スパナで締め付けます。
- 10) 電動操作(21 頁参照)で全閉にし、開度目盛が全開「0」を指していることを確認します。



(図 1)



※ 開度と開度計がずれている場合には、全閉にしてアクチュエータカバーをスパナで緩めて取り外し、スイッチカバーを外して指針を抜き、開度目盛「0」に合わせて指針を押しこみます。

## 11. 点検項目

 **注意** **強制**

バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ 正常な状態を保ち、末永くお使いいただくため、3 か月～6 か月ごとを目安にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化に注意してください。
- ▶ バルブまたは部品を交換する際にバルブを配管から取り外すときは、配管内の流体を完全に抜いてから作業を行ってください。
- ▶ 不具合現象が確認されたときは『12. 不具合の原因と処置方法』を参照して処置してください。



## 日常点検

点検項目と点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
外部漏れ (目視)	漏れが 無いこと	配管フランジ接続部 バルブ全体の表面	① 配管ボルトを規定トルクで増し締めする ② バルブを配管から取り外して配管ボルトの締め付けをやり直す <b>(参照：5.配管方法[フランジ形])</b> バルブを配管から取り外してバルブを交換する <b>(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</b>
内部漏れ (目視および計測)	漏れが 無いこと	バルブ全閉時の二次側への漏れ	バルブを配管から取り外してバルブまたは不具合部品を交換する <b>(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</b>
		流量計、圧力計等の測定値	バルブを配管から取り外してバルブまたは不具合部品を交換する <b>(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</b>
作動位置ズレ (目視)	ズレの 無いこと	アクチュエータの開度表示部	アクチュエータカバーを取り外してリミットスイッチ作動位置を調整する <b>(参照：10.リミットスイッチの調整方法)</b>

## 日常点検（続き）

点検項目と点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
異音 (聴音)	異音の 無いこと	バルブ及びアクチュエータ	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
		バルブ周辺の配管	使用条件を再確認する <a href="#">(参照：2. 安全上のご注意)</a>
異臭 <sup>※1)</sup> (嗅覚)	異臭が 無いこと	バルブ及びアクチュエータ	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>

※1) 異常があると、焼損または火災につながる恐れがある項目です。

## 定期点検

●点検周期の目安：3 か月

点検項目と点検方法	判断の目安	点検箇所	不具合時の処置方法
開閉 作動時間 (計測)	誤差 ±1 秒以内	アクチュエータの開度表示部	電源電圧 (±10%) を確認する (参照：アクチュエータの銘板)
			バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
振動 (触診)	他所との差が無いこと	バルブ及びアクチュエータ	使用条件を再確認し、振動源を除去する (参照：2. 安全上のご注意)
			バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
		バルブ周辺の配管	使用条件を再確認し、振動源を除去する (参照：2. 安全上のご注意)

## 定期点検

### ●点検周期の目安：6 か月

点検項目と 点検方法	判断の目安	点検箇所	不具合時の処置方法
手動ハンドルの 操作性（感触）	スムーズに 回ること	手動操作部	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
ボルト類の ゆるみ (目視、触診)	ゆるみの 無いこと	フランジ配管用	配管ボルトを規定トルクで増し締めする <a href="#">(参照：5. 配管方法[フランジ形])</a>
水の侵入 <sup>※1)</sup> (目視)	侵入の 無いこと	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
異物の侵入 <sup>※1)</sup> (目視)	侵入の 無いこと	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
絶縁抵抗の測定 <sup>※1)</sup> (計測)	50MΩ以上 あること	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
腐食 または錆び <sup>※1)</sup> (目視)	腐食または 錆びの 無いこと	製品の外観及びアクチュエータ内	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
製品損傷	傷、割れ、変形 の無いこと	製品の外観	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：9.部品交換のための分解/組立方法)</a>

※1) 異常があると、焼損または火災につながる恐れがある項目です。

12. 不具合の原因と処置方法

不具合現象	予想される原因	対策・処置
手動操作のとき、手動ハンドルが廻らない(廻せない)	既に全開(または全閉)になっている	手動ハンドルを逆方向に回転させる
	ハンドル操作方向とは逆方向に通電されたままになっている	電源を切ってから手動操作する
	バルブに異物が噛み込んでいる	異物を取り除く
	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く
	流体の影響(温度・成分・圧力など)により、バルブのトルクが増加している	使用条件を再確認する (参照：2. 安全上のご注意)
電動操作で開閉しない	操作盤の電源が切れている	電源を入れる
	アクチュエータへの結線が外れている	結線状態をもう一度確認する (参照：5.配管方法)
	開閉同時に通電されている	
全閉にしても流体が漏れる	ダイヤフラムが磨耗している	ダイヤフラムを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	ダイヤフラム又はボディにキズがある	該当する部品を交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	バルブに異物が噛み込んでいる	分解して異物を取り除く
	電圧が低い	電圧を確認する
バルブから流体が漏れる	ボディと電動用ボンネット間のボルトが緩んでいる	規定トルクで締め付ける (参照：5. 配管方法.)
アクチュエータは作動しているがバルブが開閉していない	ダイヤフラム又はボディにキズがある	該当する部品を交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	ダイヤフラムとボディの間に異物が噛み込んでいる	分解して異物を取り除く
	ダイヤフラムが破損している	該当する部品を交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)

## 不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
電動操作で開閉しない	電源が入っていない	電圧を確認して電源を入れる
	端子台への結線が外れている	直ちに使用を中止し、結線状態を再確認する (参照：7.製品の仕様 の配線図)
	ケーブルまたはアクチュエータ内の結線が断線している	ケーブルを取り替える、またはアクチュエータを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	開閉同時通電になっている、または端子台への結線が間違っている	直ちに使用を中止し、結線状態を再確認する (参照：7.製品の仕様 の配線図)
	電源電圧が異なっている	テスターで電圧を確認して正しい電圧にする
	電源電圧が低い	テスターで電圧を確認して正しい電圧にする
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)

## 不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
電動操作で開閉しない	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く
	流体の影響（温度・成分・圧力など）により、バルブのトルクが増加している	使用条件を再確認する (参照：2. 安全上のご注意)
	サーマルプロテクタが作動している	直ちに使用を中止し、周囲温度または開閉頻度を下げる
	アクチュエータ内に水や異物が侵入してショートしている	直ちに使用を中止し、アクチュエータを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	アクチュエータの外部腐食の影響で動かない	直ちに使用を中止し、アクチュエータを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	アクチュエータの絶縁抵抗が落ちている	直ちに使用を中止し、絶縁抵抗値を確認してアクチュエータを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
全閉にしても流体が漏れる（内部リーク）	流体圧力が高い	最高許容圧力以下で使用する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	ダイヤフラムまたはボディに摩耗またはキズがある	バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	部品が欠落している	バルブを配管から取り外して該当部品を取り付ける、またはバルブを交換する (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：9.部品交換のための分解/組立方法)
	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く

## 不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
バルブから流体が漏れる (外部リーク)	バルブに亀裂または破損がある	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してバルブを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
アクチュエータは作動しているがバルブが開閉していない	ダイヤフラムが破損している	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
アクチュエータから異臭、発熱、または発煙がある	アクチュエータが故障している	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
	端子台への結線が間違っている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
	アクチュエータに過電流が流れている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
	アクチュエータが落雷の影響を受けている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
アクチュエータが腐食している	水や薬液などの液体を浴びている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>
バルブが腐食または変形している	水や薬液などの液体を浴びている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してバルブを交換する <a href="#">(参照:9.部品交換のための分解/組立方法)</a>



## 13. 残材・廃材の処理方法



燃やすと有毒ガスが発生します。

- ▶ 製品または部品を廃棄される場合は、各自治体の指針にしたがい、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。

**お問合せ先**

この製品に関するお問い合わせは、最寄りの販売店、弊社営業所、または弊社 web サイトの「お問い合わせ」までご連絡ください。

**[取扱説明書]**

ダイヤフラムバルブ 15 型 電動式 S 型  
125、150mm  
(自動バルブ)



<https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

本書内容につきましては、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

**2024.04**

【取扱説明書】ダイヤフラムバルブ 15 型 電動式 S 型

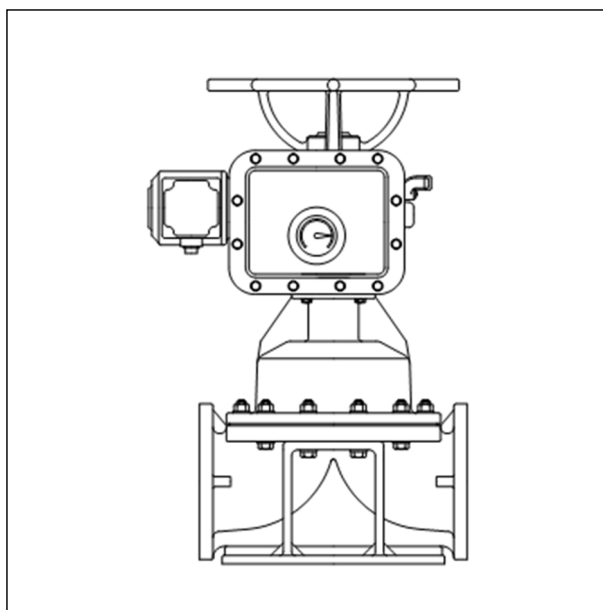
# ダイヤフラムバルブ 72 型

## 電動式 S 型

### 200、250mm

#### (自動バルブ)

## 取扱説明書



このたびは、弊社製品をご採用いただきまして、ありがとうございます。

この取扱説明書は、弊社製品を安全にご使用いただくための重要な事柄について記載していますので、製品を取り扱う前に必ずお読みください。なお、お読みになられた後は、お使いになられる方がいつでも見ることが出来る場所に必ず保管していただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 旭有機材株式会社

## -安全にご使用いただくために-



この取扱説明書は、弊社製品を取り扱われる方が当社製品、電気、機械、制御等の基本的な知識をお持ちであることを前提として書かれており、取扱い内容によっては専門用語を含んでいます。

この取扱説明書を熟読し、内容を十分に理解され、安全事項を順守して正しく使用してください。



この取扱説明書では、人的障害や物的損害の状況、及び規模をお知らせするために、特に重要とされる事象について「警告」「注意」「禁止」「強制」の内容をマークとともに区分して記載しています。

順守しなかった場合、思わぬ障害や損害が発生する可能性がありますので、必ず順守されますよう、よろしくお願いいたします。

### <警告・注意表示>

 <b>警告</b>	製品の取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負うことが想定される内容」です。
 <b>注意</b>	製品の取り扱いを誤った場合、「傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定される内容」です。

### <禁止・強制表示>

 <b>禁止</b>	製品の取扱いにおいて、「行ってはいけない内容」で禁止します。
 <b>強制</b>	製品の取扱いにおいて、「必ず行っていただく内容」で強制します。

## 目次

<b>1. 弊社製品の保証内容について</b> .....	<b>4</b>
適用対象.....	4
保証期間.....	4
保証範囲.....	4
免責事項.....	4
<b>2. 安全上のご注意</b> .....	<b>5</b>
開梱・運搬・保管.....	5
製品の取り扱い.....	6
<b>3. 各部品の名称</b> .....	<b>8</b>
200mm、250mm.....	8
<b>4. 製品の仕様</b> .....	<b>9</b>
型番表.....	9
最高許容圧力と温度の関係.....	10
アクチュエータ.....	11
配線図(LTMD).....	12
スイッチングチャート.....	12
<b>5. 取付方法</b> .....	<b>13</b>
<b>6. サポート設置方法</b> .....	<b>15</b>
<b>7. 電気配線方法</b> .....	<b>16</b>
<b>8. 試運転方法</b> .....	<b>18</b>
手動操作.....	19
電動操作.....	19
<b>9. 部品交換のための分解/組立方法</b> .....	<b>20</b>
〈分解〉.....	21
〈組立〉.....	21
<b>10. リミットスイッチの調整方法</b> .....	<b>22</b>
<b>11. 点検項目</b> .....	<b>24</b>
日常点検.....	25
定期点検.....	26
<b>12. 不具合の原因と処置方法</b> .....	<b>28</b>
<b>13. 残材・廃材の処理方法</b> .....	<b>32</b>
<b>お問合せ先</b> .....	<b>33</b>

## 1. 弊社製品の保証内容について

契約書、仕様書等に特記事項のない場合、弊社が製造・販売するバルブ等の配管材料製品（以下、「対象製品」といいます。）の保証内容は以下のとおりとなります。

### 適用対象

この保証は対象製品を日本国内で使用される場合に限り適用されます。海外でご使用になられる場合には、別途、弊社にお問い合わせください。

### 保証期間

保証期間は、納入後 1 年間といたします。

### 保証範囲

上記保証期間中に弊社の責任による故障や不具合が生じた場合は、代替品との交換、または修理を無償で実施いたします。

ただし、保証期間内であっても、次に該当する場合は保証の対象外（有償でのご対応）といたします。



- ▶ 施工・据付・取扱い、及びメンテナンス等において、仕様書・取扱説明書等に記載された保管・使用条件や注意事項等が守られていない場合。
- ▶ お客さまの装置やソフトウェアの設計等、対象製品以外に起因した不具合の場合。
- ▶ 弊社以外による製品の改造・二次加工に起因した不具合の場合。
- ▶ 取扱説明書等に記載された定期点検や消耗部品の保守・交換が正常に実施されていれば回避できたと認められる不具合の場合。
- ▶ 部品をその製品の本来の使い方以外にご使用になられた場合。
- ▶ 弊社出荷時の科学技術の水準では予見できなかった事由による故障や不具合の場合。
- ▶ 天災・災害等の弊社の責任ではない外部要因による不具合の場合。




### 免責事項

- ▶ 弊社製品の故障に起因する二次災害（装置の損傷、機会損失、逸失利益等）、及びいかなる損害も補償の対象外とさせていただきます。
- ▶ 弊社は製品の品質・信頼性の向上に努めておりますが、その完全性を保証するものではありません。特に人の生命、身体、または財産を侵害するおそれのある設備等にご使用になられる場合には、通常発生し得る不具合を十分に考慮した適切な安全設計等の対策を施してください。このようなご使用については、事前に仕様書の書面による弊社の同意を得ていない場合は、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。
- ▶ 弊社製品のご使用に際しては、製品仕様や注意事項等の遵守をお願いいたします。お客様がこれらを怠ったことによりお客様に損害が発生した場合、弊社は一切の責任を負わないものとします。ただし、お客さまに生じた損害が、弊社製品の欠陥による場合はこの限りではありません。




## 2. 安全上のご注意

開梱・運搬・保管

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <p>▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。</p>



 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 投げ出しや落下、打撃などによる衝撃を与えないでください。</p> <p>▶ ナイフや手かぎなどの鋭利な物体で、引っかきや突き刺しなどをしないでください。</p> <p>▶ ダンボール梱包は、荷崩れしないように無理な積み重ねをしないでください。</p> <p>▶ コールタール、クレオソート（木材用防腐剤）、白あり駆除剤、殺虫剤、塗料などに接触させないでください。</p> <p>▶ バルブを運搬する場合、ハンドル掛けはしないでください。</p>
 <b>強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 配管直前までダンボールに入れたまま、直射日光を避けて、屋内（室温）で保管してください。また、高温になる場所での保管も避けてください。（ダンボール梱包は水などに濡れると強度が低下します。保管や取扱いには十分注意してください）</p> <p>▶ 開梱後、製品に異常がないか、仕様と合致しているかを確認してください。</p>

## 製品の取り扱い

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ アクチュエータは分解しないでください。</li><li>▶ 運転中の可動部には手を触れないでください。(手や腕などを巻き込むおそれがあります)</li></ul>
 <b>強制</b>	<p><b>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 弊社樹脂製配管材料に陽圧の気体を使用される場合は、水圧と同値であっても圧縮性流体特有の反発力により、危険な状態が想定されますので、管を保護資材で被覆するなど、周辺への安全対策を必ず施してご使用願います。なお、ご不明な点がございましたら、別途、弊社にお問い合わせください。</li><li>▶ 配管施工完了後、管路の漏れ試験を行う場合は、必ず水圧で確認してください。止むを得ず気体で試験を行う場合は、事前に弊社へご相談ください。</li><li>▶ ご使用前に使用電源と銘板の電圧を確認してください。異電圧の場合、機器損傷・作動不良を起こすおそれがあります。</li><li>▶ 手動操作はアクチュエータがモータによって作動していないことを確認後、操作を行ってください。</li></ul>

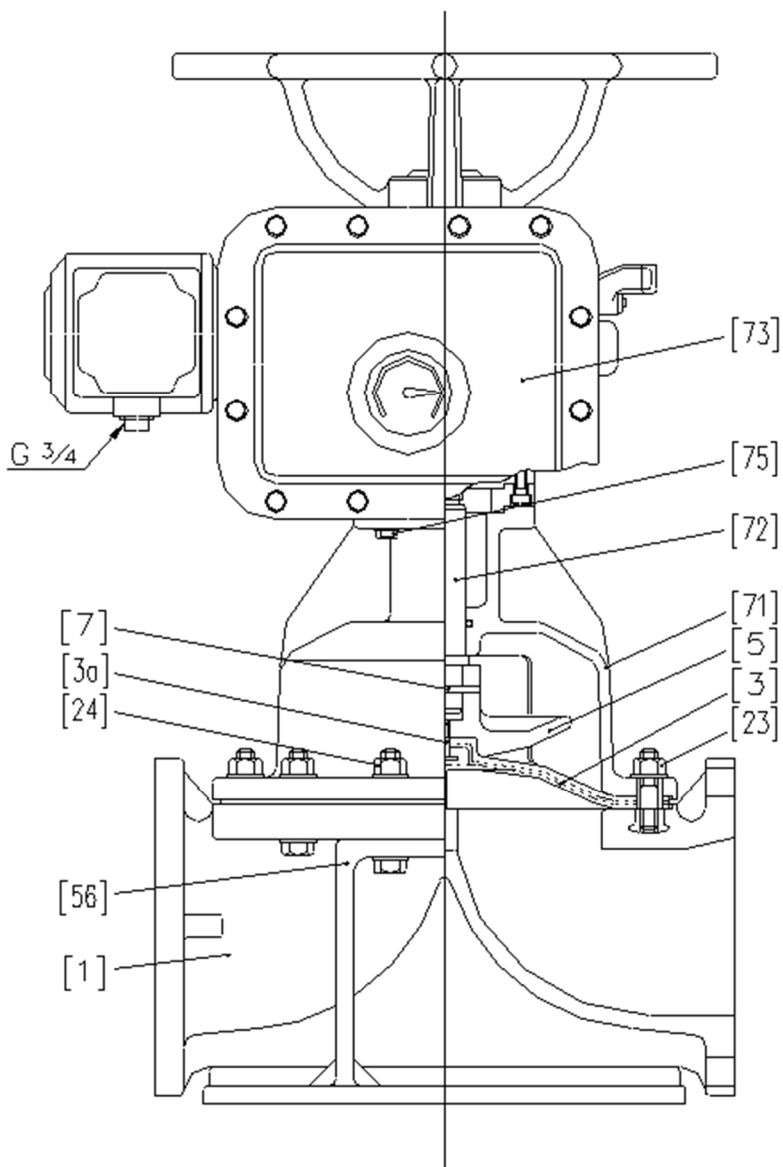


## ⚠ 注意

 <b>禁止</b>	<p><b>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ バルブに乗ったり、重量物を載せたりしないでください。</li> <li>▶ 火気や高温な物体に接近させないでください。</li> <li>▶ 水没する可能性のある場所では、使用しないでください。</li> <li>▶ バルブは据え付ける場所の雰囲気にご注意ください。特に潮風、腐食性ガス、化学薬液、海水、蒸気などにさらされる所は避けてください。</li> <li>▶ バルブに大きな振動を与えないでください。</li> <li>▶ 耐水形仕様以外は土砂や水たまりの中にアクチュエータを放置しないでください。</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p><b>ケガをするおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 保守点検が出来るスペースを十分確保して配管してください。</li> </ul> <p><b>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 流体の圧力と温度は、許容範囲内で使用してください。(最高許容圧力は水撃圧を含んだ圧力です)</li> <li>▶ 使用条件に適した材質のバルブを使用してください。(薬液の種類によっては部品が侵されるおそれがありますので、詳細については弊社へ事前にご相談ください)</li> <li>▶ 結晶性物質を含んだ流体は、再結晶しない条件で使用してください。</li> <li>▶ 常時、水や粉じんなどが飛び散る場所、及び直射日光のあたる場所は避けるか、または全体を覆うカバーなどでバルブを保護してください。</li> <li>▶ 「11.点検項目」を参照して、定期的にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化にご注意ください。</li> <li>▶ 保管・使用中の温度変化やクリープによりダイヤフラム部(ボンネットとボディの間)の締め付けボルト・ナットに緩みが生じる場合があります。点検の上、ボルト・ナットを、「ボンネット締め付けトルク表(22 頁参照)」の値まで対角線上に増締めを行ってください。</li> <li>▶ バルブ設置時には適切なバルブサポートを施してください。</li> <li>▶ 必ず表示された製品仕様内で使用してください。</li> <li>▶ 異臭や発熱、発煙した場合は、直ちに供給電源を切ってください。異常が認められた場合は、必ずお買い上げの販売店、または弊社まで点検をご相談ください。</li> <li>▶ 手動操作は、付属のハンドルで行ってください。</li> <li>▶ 爆発性雰囲気の中で使用する際は、アクチュエータが防爆仕様に適合していることを確認してください。</li> <li>▶ 据付場所の周囲温度は、-10～50℃の範囲内にしてください。</li> <li>▶ 腐食性ガスや雰囲気の悪い場所は避け、全体を覆うカバーなどを設けてください。</li> </ul>

## 3. 各 부품 の 名 称

200mm、250mm



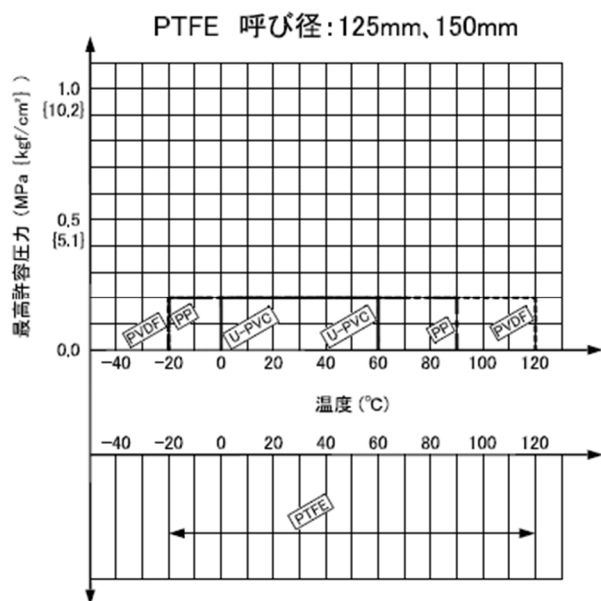
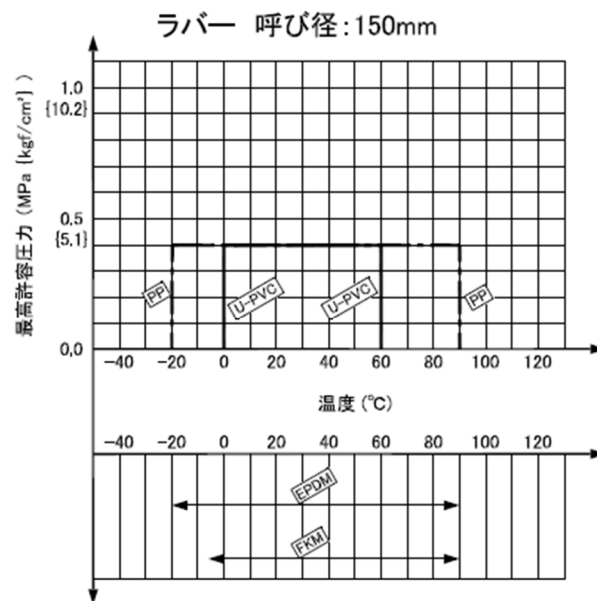
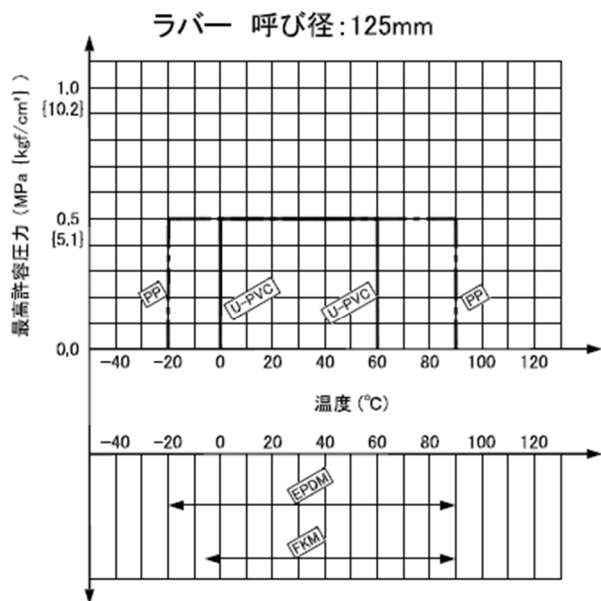
[1]	ボディ	[24]	ボルト・ナット
[3]	ダイヤフラム	[56]	取付台(A)
[3a]	ダイヤフラム埋込金具(A)	[71]	ボンネット(B)
[5]	コンプレッサー	[72]	ステム(B)
[7]	コンプレッサーピン	[73]	アクチュエータ
[23]	植込ボルト・ナット	[75]	ボルト(B)

## 4. 製品の仕様

### 型番表

駆動	型式	駆動部型式	作動方式	ボディ材質	シール材質	接続	規格	呼び径	超純シリーズ
A	72	S	*	*	*	F	*	***	*
A 自動弁	72 72型	S S型	3 三相200V 4 三相400V	U U-PVC P PP F PVDF	E EPDM V FKM T PTFE	F フランジ形	J JIS 10K 5 JIS 5K D DIN A ANSI	200 200mm 250 250mm	1 禁油品

## 最高許容圧力と温度の関係

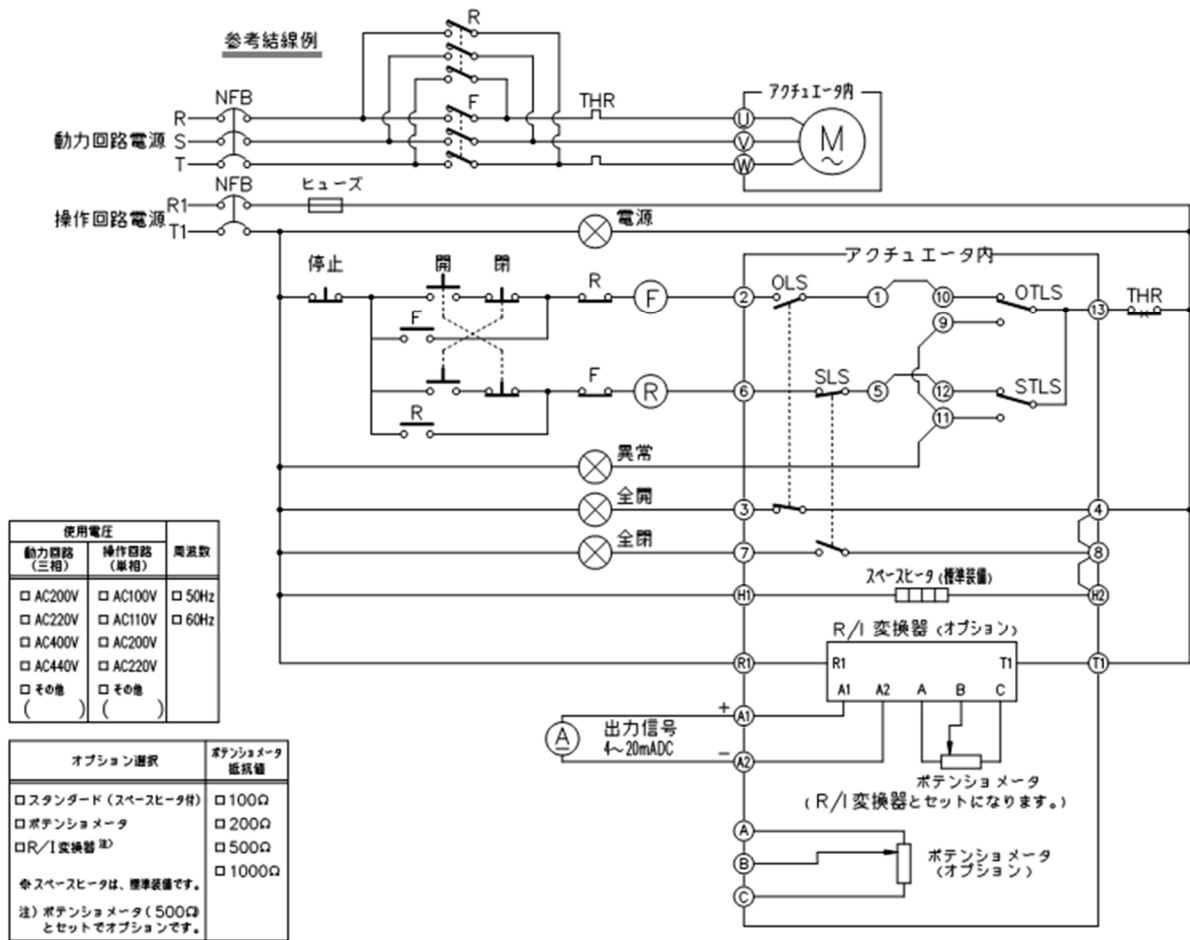


## アクチュエータ

### 仕様一覧表

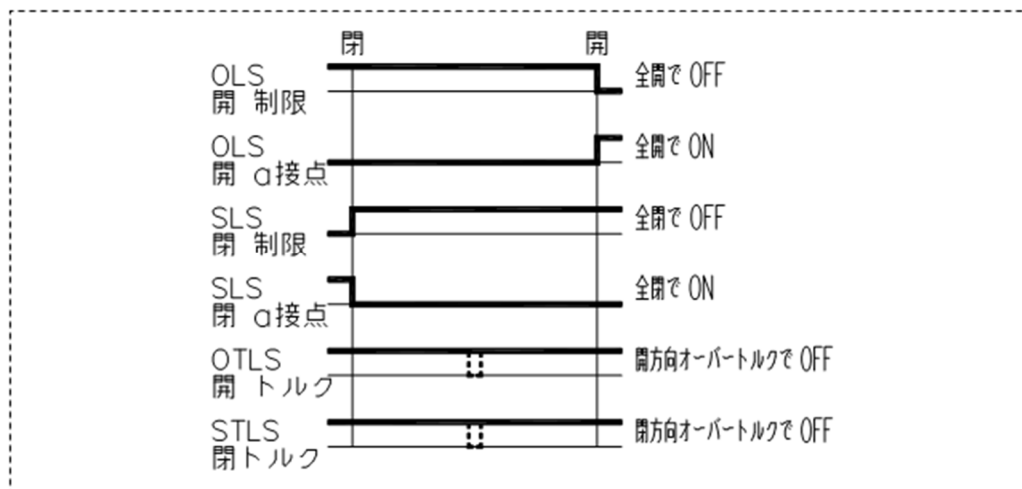
適合呼び径 (mm)		200	250
アクチュエータ型式		LTMD-01	LTMD-02
開閉時間(秒)	50Hz	75.5	90
	60Hz	63	75
保護構造		IP55	
モータ起動電流 (A) 50/60Hz	AC200V	8.0 / 7.4	15.6 / 15.2
	AC400V	4.0 / 3.7	7.8 / 7.6
モータ定格電流 (A) 50/60Hz	AC200V	2.5 / 2.2	4.4 / 4.0
	AC400V	1.3 / 1.1	2.2 / 2.0
手動操作ハンドル回転数		16	18
ケーブルコネクタ呼び径		操作回路：2-G1、モータ回路：G3/4	
モータ定格出力(W)		400	750
モータ絶縁種別		B 種	
モータ時間定格		15 分	
リミットスイッチ容量		AC250V 5A	
モータ極数(P)		4	
スペースヒータ定格出力(W)		10	
ポテンショメータ (A)~(C)間 最大印加電圧(V)	100 Ω	15	
	200 Ω	20	
	500 Ω	30	
	1K Ω	45	

## 配線図(LTMD)









注記：配線図は開動作終了時を示しています。

## スイッチングチャート



## 5. 取付方法

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <p>▶ バルブの吊り下げや玉掛けは、安全に十分配慮して、吊荷の下に入らないでください。</p>
 <b>強制</b>	<p>ケガをするおそれがあります。</p> <p>▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。</p> <p>▶ 配管施工する際は、作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。</p>

 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ 流体にゴミなどの異物の混入した状態でバルブを開閉しないでください。</p>
 <b>強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ Uバンドなどで配管サポートを取られる際は、締め過ぎに注意してください。</p> <p>▶ 取付けの際は配管及びバルブなどに引張り、圧縮、曲げ、衝撃などの無理な応力が加わらないように設置してください。</p> <p>▶ バルブ取付後においても砂などの異物がパイプライン内に残るおそれがありますので、配管内を洗浄した後、バルブの開閉をしてください。</p> <p>▶ 接続フランジは全面座のものを使用してください。</p> <p>▶ 相互フランジ規格に違いがないように確認してください。</p> <p>▶ 必ずシール用ガスケット(AV パッキン)、ボルト、ナット、ワッシャーを使用し所定の締付けトルク値で締付けてください。(AV パッキン以外の場合は締付トルク値が変わります)</p>

準備するもの ▶ トルクレンチ ▶ AVパッキン

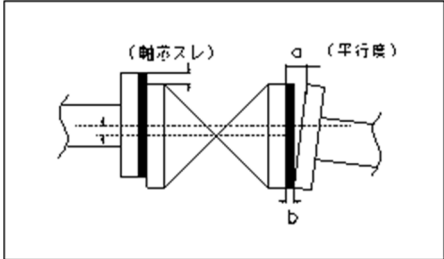
**[手順]**

- 1) フランジ間に AVパッキンをセットします。
- 2) 連結フランジ側からワッシャーとボルトを入れ、バルブ側からワッシャーとナットを入れて、手による仮締めを行います。

**⚠ 注意**

**❗ 強制** バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。  
▶ フランジ面の平行度及び軸芯ズレの寸法は下記の表の数値以下にしてください。

呼び径 (mm)	軸芯ズレ	平行度 (A-b)
200、250	1.5mm	1.0mm



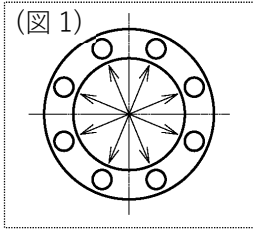
- 3) 徐々に規定トルク値まで対角線上(図 1 参照)にトルクレンチで締め付けます。

**⚠ 注意**

**❗ 強制** バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。  
▶ 接続フランジのボルト・ナットは対角線上に規定トルクで締め付けてください。

規定トルク値                      単位： N・m {kgf・cm}

呼び径	200mm	250mm
トルク値	55.0 {561}	55.0 {561}





## 6. サポート設置方法

### ⚠️ 注意

<b>禁止</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ ポンプ周りの配管でバルブに大きな振動を起こさせないでください。</p>
<b>強制</b>	<p>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ バルブサポートを設置してください。 (バルブ本体及び配管に無理な力が加わり破損などを引き起こすおそれがあります)</p>

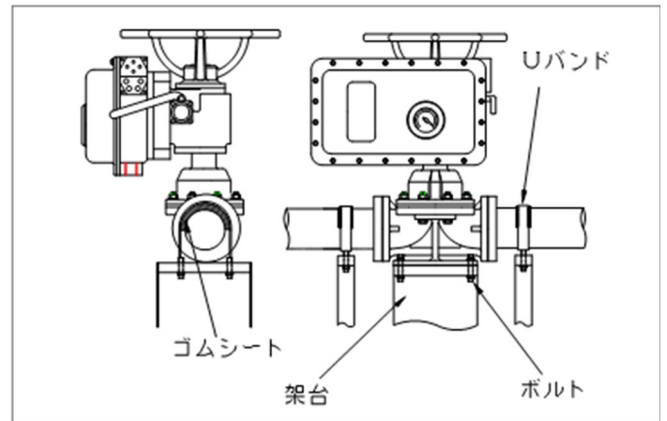
準備するもの	▶ スパナ	▶ Uバンド(ボルト付)	▶ ボルト・ナット(M20)
	▶ ゴムシート		

### 水平配管

バルブに設けている取付台[56]と架台をボルトで固定します。

パイプは上部にゴムシートを敷き、Uバンドで固定します。

(サポート設置例)



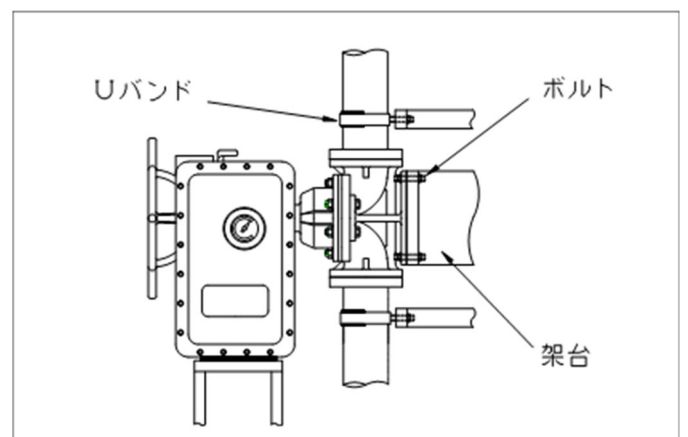
図はポジションナ付です。

### 垂直配管

バルブに設けている取付台[56]と架台をボルトで固定します。




アクチュエータ部にゴムシートを敷き、架台で支持します。




(サポート設置例)



図はポジションナ付です。

## 7. 電気配線方法

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通電状態で結線・離線を行わないでください。また、基板上の他の部品や端子台配線部分に触らないでください。(感電や機器損傷のおそれがあります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アース配線は必ず行ってください。 (アースが不良だと漏電による感電、火災などを引き起こすおそれがあります)</li> <li>▶ 調整や点検する場合は、手の水気や油分がないようにしてください。 (感電や機器損傷のおそれがあります)</li> </ul>

 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p><b>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 無電圧リミットスイッチは、接点容量以上の負荷をかけないでください。また微小負荷(1mA~100mA、5V~30V)で使用される場合は弊社へご相談ください。</li> <li>▶ 複数(2 台以上)の電動式バルブを直列に接続しないでください。また、開閉スイッチ(またはリレー接点)は電動式バルブ 1 台ごとに設けてください。</li> <li>▶ 高電圧線やインバーターなどのノイズが発生するもの、磁気が発生するものの近くでは使用しないでください。(誤動作や故障の原因となります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p><b>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 結線作業を行うときは、絶縁不良のないことを確認してください。 (配線が損傷するおそれがあります)</li> <li>▶ 各部のフタは確実に締め付けてください。(雨水・粉じんなどが浸入し、故障の原因になります)</li> <li>▶ 結線は必ず配線図にしたがい正しく結線してください。また配線後必ず接続が確実にされているか確認後、電源を入れてください。(誤作動や故障の原因になります)</li> <li>▶ 各フタ部は、O リングによりシールされています。配線時など、カバーを外し再度取り付ける場合、O リングが所定の位置に必ずセットされ確実にシールされていることを確認してください。(シールが不十分だとアクチュエータ内部に雨水などが侵入し、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ 屋外など、雨水、水滴のかかる場所で使用される場合は、アクチュエータの配線口から雨水などが浸入しないようにしてください。(アクチュエータ内部に雨水などが侵入、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ ご使用前に使用電源と、銘板の電圧を確認してください。異電圧の場合、機器損傷・作動不良を起こすおそれがあります。</li> </ul>

準備するもの	▶ プラスドライバー	▶ ワイヤーストリッパー	
	▶ 圧着端子	▶ コネクタ	▶ 端子圧着工具

## [手順]

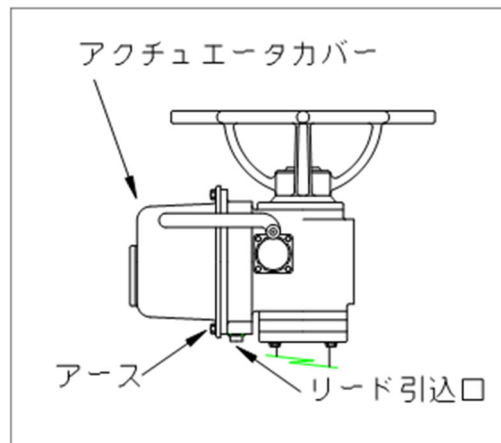
- 1) アクチュエータカバーを固定しているねじをスパナで緩め、カバーをはずします。
- 2) リード引込口のプラグをスパナで外します。
- 3) リード引込口にコネクタを取り付けます。
- 4) コネクタにケーブルを通します。
- 5) ワイヤーストリッパーでケーブルの外皮をむきます。
- 6) 端子圧着工具でリード線に圧着端子を付けます。
- 7) 端子台にプラスドライバーで13頁にしたがって結線します。  
※ねじはしっかりと締めて付けてください。

(漏電や感電のおそれがあります)




- 8) コネクタを締め付けます。  
※コネクタはしっかりと締め付けてください。




(漏電や感電のおそれがあります)

- 9) アクチュエータカバーを固定しているねじをスパナで締め付け、カバーを取り付けます。
- 10) アースを取り付けます。



8. 試運転方法

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 通電状態で結線・離線を行わないでください。また、基板上の他の部品や端子台配線部分に触らないでください。(感電や機器損傷のおそれがあります)</li> <li>▶ アース配線は必ず行ってください。 (アースが不良だと漏電による感電、火災などを引き起こすおそれがあります)</li> <li>▶ 運転中の可動部には、絶対に手を触れないでください。 (手や腕などを巻き込むおそれがあります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p><b>重傷を負うおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 調整や点検する場合は、手の水気や油分がないようにしてください。 (感電や機器損傷のおそれがあります)</li> <li>▶ 手動操作は、アクチュエータがモータによって作動していないことを確認後、操作を行ってください。</li> </ul>

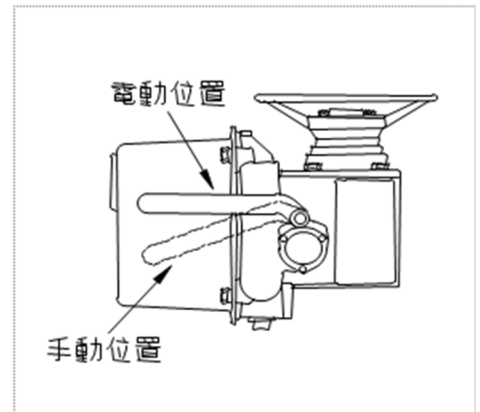
 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p><b>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 複数(2 台以上)の電動式バルブを直列に接続しないでください。また、開閉スイッチ(またはリレー接点)は電動式バルブ 1 台ごとに設けてください。</li> <li>▶ 高電圧線やインバータなどのノイズが発生するもの、磁気が発生するものの近くでは使用しないでください。(誤動作や故障の原因となります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p><b>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 結線作業を行うときは、絶縁不良のないことを確認してください。 (配線が損傷するおそれがあります)</li> <li>▶ 各部のフタは確実に締め付けてください。(雨水・粉じんなどが浸入し、故障の原因になります)</li> <li>▶ 結線は必ず配線図にしたがい正しく結線してください。また配線後必ず接続が確実にされているか確認後、電源を入れてください。(誤作動や故障の原因になります)</li> <li>▶ 各フタ部は、O リングによりシールされています。配線時など、カバーを外し再度取り付ける場合、O リングが所定の位置に必ずセットされ確実にシールされていることを確認してください。(シールが不十分だとアクチュエータ内部に雨水などが侵入し、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ 屋外など、雨水、水滴のかかる場所で使用される場合は、アクチュエータの配線口から雨水などが浸入しないようにしてください。 (アクチュエータ内部に雨水などが侵入、感電や故障の原因となります)</li> <li>▶ 異臭、発熱、発煙した場合は、直ちに供給電源を切ってください。(異常を感じたまま使用すると火災が発生するおそれがあります。異常が認められた場合は必ずお買い上げの販売店または弊社まで点検をご相談ください)</li> </ul>

## 手動操作

<b>⚠️ 注意</b>	
<b>🚫 禁止</b>	<p>バルブが故障する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全開・全閉位置からさらに、無理に手動ハンドル(オプション品)をまわさないでください。</li> <li>▶ LTRM 及び LTMD は自動復帰型です。切り替えレバーの手動操作では、電動側への復帰はできません。電動側への手動操作はしないでください。</li> </ul>
<b>⚡ 強制</b>	<p>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ LTRH は手動復帰型です。切り替えレバーを手動で電動位置にしてください。</li> </ul>

### [手順]

- 1) 切り替えレバーを手動側におしてください。円滑に切り替わらないときは、手動ハンドルをどちらかに回しながら切り替えレバーをおしてください
- 2) 開度計を見ながら手動ハンドルを回します。
  - ▶ 右回転(時計回り) → 閉方向
  - ▶ 左回転(反時計回り) → 開方向
- 3) 電源を入れ、『開』または『閉』のボタンを押してください。(切り替えレバーは電動位置へ自動的に復帰します)






## 電動操作



<b>⚠️ 注意</b>	
<b>🚫 禁止</b>	<p>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アクチュエータカバーを開けたままにしないでください。(端子に接触すると感電します)</li> </ul>

### [手順]

- 1) 電源を入れます。
- 2) 開閉スイッチを操作し開または閉の状態にして、バルブの表示方向と作動方向が合致していることを確認します。合致していない場合には、配線図(13 頁参照)を確認の上、もう一度 1)から操作を行ってください。
- 3) 全開「O」または全閉「S」にして電源を切ります。

## 9. 部品交換のための分解/組立方法

 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アクチュエータは分解しないでください。</li> <li>▶ 通電状態で結線・離線を行わないでください。また、基板上の他の部品や端子台配線部分に触らないでください。(感電や機器損傷のおそれがあります)</li> </ul>
 <b>強制</b>	<p>ケガをするおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 使用する機械工具及び電動工具は、事前に必ず安全点検を行ってください。</li> <li>▶ 作業内容に応じた適切な保護具を着用して作業を行ってください。</li> </ul> <p><b>バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ バルブの取替えや部品交換の際には、配管内の流体を完全に抜いてください。また流体が抜けない場合は、流体の圧力をゼロにしてください。</li> </ul>

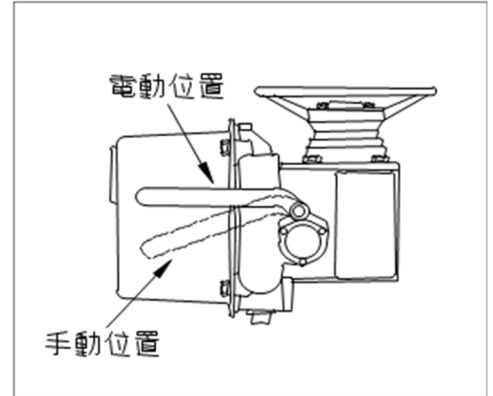
 <b>注意</b>	
 <b>強制</b>	<p><b>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各部のフタは確実に締め付けてください。(雨水、粉じんなどが浸入し、故障の原因になります)。</li> <li>▶ アクチュエータは出荷時に調整していますが、設定変更や調整が必要な場合は各取扱説明書にしたがい正しく行ってください。(誤作動や故障の原因になります)</li> <li>▶ 各フタ部は、Oリングによりシールされています。配線時など、カバーを外し再度取り付ける場合、Oリングが所定の位置に必ずセットされ確実にシールされていることを確認してください。(シールが不十分だとアクチュエータ内部に雨水などが侵入し、感電や故障の原因となります)</li> </ul>

準備するもの ▶ スパナ ▶ 保護手袋 ▶ 保護眼鏡

## 〈分解〉

### [手順]

- 1) 配管内の流体を完全に抜きます。
- 2) バルブを電動操作または手動操作で全閉の状態にします。
- 3) 電源を切ります。
- 4) ボルト・ナット[24]を緩めて取り外します。
- 5) アクチュエータ[73]を持ち上げて取り外します。
- 6) ダイヤフラム[3]を左回転(反時計回り)させて取り外します。

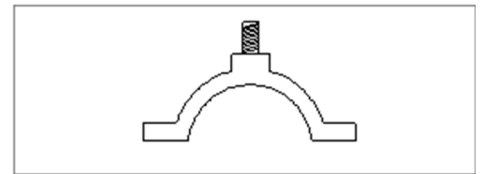


## 〈組立〉

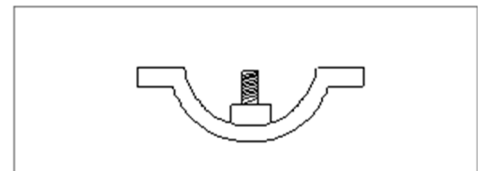
### [手順]

- 1) ダイヤフラム[3]を図1の形状にします。
- 2) ダイヤフラム[3]を右回転(時計回り)させて取り付けます。
- 3) ダイヤフラム[3]は、ねじ部が止まる場所まで締め付けた後、弁座シールリップの方向とコンプレッサーの押さえ面が一致するまで左回転(反時計回り)させます。
- 4) ダイヤフラム[3]を図2の形状にします。
- 5) 開度計を見ながら手動ハンドルを左回転(反時計回り)させ、全開の状態にします。
- 6) アクチュエータ[73]をボディ[1]に乗せます。
- 7) ボルト・ナット[24]を取り付けて、ボディ[1]とボンネット[71]を締め付けます。

(図1)



(図2)








(表1) ボディ締め付けトルク値

単位；N・m {kgf・cm}

呼び径	200mm	250mm
ダイヤフラム		
ラバー	30.0 {306}	30.0 {306}
PTFE	30.0 {306}	30.0 {306}

## 10. リミットスイッチの調整方法

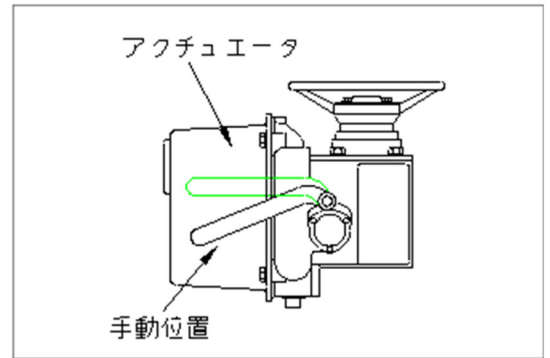
 <b>警告</b>	
 <b>禁止</b>	<p>重傷を負うおそれがあります。</p> <p>▶ への結線・離線は通電状態では行わないでください。 (感電したり機械が突然始動したりします)</p>

 <b>注意</b>	
 <b>禁止</b>	<p>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ アクチュエータカバーを開放して放置または使用しないでください。 (水、粉じんなどが浸入し動作不良になることがあります)</p>
 <b>強制</b>	<p>バルブが損傷する、または漏れるおそれがあります。</p> <p>▶ リミットスイッチを 1mA～100mA、5V～30V で使用される場合は、弊社へご相談ください。</p>

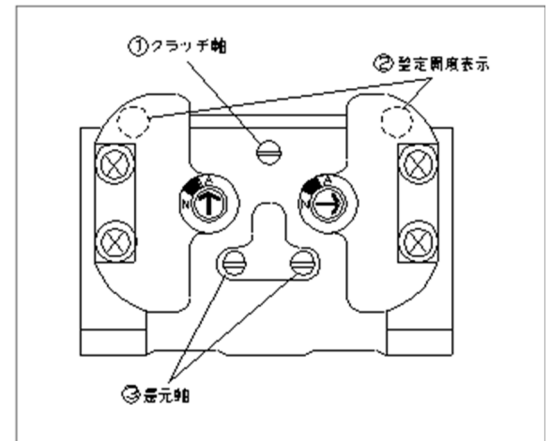


## [手順]

- 1) 電源を切り配管内の流体を完全に抜いた後、アクチュエータカバーをスパナで緩めて取り外します。
- 2) 調整する開度(全開または全閉)へ手動操作(20 頁参照)を行います。
- 3) クラッチ軸に専用ハンドルを差込み、押して 30 度ほど回してクラッチ軸が引込んだ状態にします。  
※この操作を行わないで次の操作に移るとリミットスイッチ機構を破損するおそれがあります。
- 4) 移動した開度に割当てられたスイッチ(整定開度表示②で確認し、例えば全開のときは「O」のスイッチ)を整定します。
- 5) 該当するスイッチに最も近い還元軸③(図 4)に専用ハンドルを差込み、回す回数が少なくて済む方向に還元軸を回しスイッチの矢印が N から A または A から N に転換するところを探します。
- 6) 矢印を N の状態にして、N から A へ転換させたところで専用ハンドルを抜き取ります。
- 7) 専用ハンドルを再びクラッチ軸に差込み、ハンドルを回してクラッチ軸を元に戻します。
- 8) リミットスイッチがバルブの動作に追従しているか手動操作(20 頁参照)により確認します。
- 9) アクチュエータカバーを取り付けて、スパナで締め付けます。
- 10) 電動操作(20 頁参照)で全閉にし、開度目盛が全開「O」を指していることを確認します。



(図 4)



※開度と開度計がずれている場合には、全閉にしてアクチュエータカバーをスパナで緩めて取り外し、スイッチカバーを外して指針を抜き、開度目盛「O」に合わせて指針を押しこみます。

## 11. 点検項目

 **注意** **強制**

バルブが破損する、損傷する、または漏れるおそれがあります。

- ▶ 正常な状態を保ち、末永くお使いいただくため、3 か月～6 か月ごとを目安にメンテナンスを行ってください。特に長期保管や休転時、または使用中の温度変化や経時変化に注意してください。
- ▶ バルブまたは部品を交換する際にバルブを配管から取り外すときは、配管内の流体を完全に抜いてから作業を行ってください。
- ▶ 不具合現象が確認されたときは『12. 不具合の原因と処置方法』を参照して処置してください。

## 日常点検

点検項目と点検方法	判断の目安	点検箇所	処置方法
外部漏れ (目視)	漏れが 無いこと	配管フランジ接続部	① 配管ボルトを規定トルクで増し締めする ② バルブを配管から取り外して配管ボルトの締め付けをやり直す <b>(参照：8.取付方法[フランジ形])</b>
		バルブ全体の表面	バルブを配管から取り外してバルブを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
内部漏れ (目視および計測)	漏れが 無いこと	バルブ全閉時の二次側への漏れ	バルブを配管から取り外してバルブまたは不具合部品を交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
		流量計、圧力計等の測定値	バルブを配管から取り外してバルブまたは不具合部品を交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
作動位置 ズレ (目視)	ズレの 無いこと	アクチュエータの開度表示部	アクチュエータカバーを取り外してリミットスイッチ作動位置を調整する <b>(参照：15.リミットスイッチの調整方法)</b>
異音 (聴音)	異音の 無いこと	バルブ及びアクチュエータ	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
		バルブ周辺の配管	使用条件を再確認する <b>(参照：2.取扱い使用上の注意)</b>
異臭 <sup>※1)</sup> (嗅覚)	異臭が 無いこと	バルブ及びアクチュエータ	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>

※1) 異常があると、焼損または火災につながる恐れがある項目です。

## 定期点検

### ●点検周期の目安：3 か月

点検項目と 点検方法	判断の目安	点検箇所	不具合時の処置方法
開閉 作動時間 (計測)	誤差±1秒以内	アクチュエータの開度 表示部	電源電圧(±10%)を確認する (参照：アクチュエータの銘板)
			バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
振動 (触診)	他所との差が 無いこと	バルブ及びアクチュエータ	使用条件を再確認し、振動源を除去する (参照：2.取扱い使用上の注意)
			バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
		バルブ周辺の配管	使用条件を再確認し、振動源を除去する (参照：2.取扱い使用上の注意)

## 定期点検

### ●点検周期の目安：6 か月

点検項目と 点検方法	判断の目安	点検箇所	不具合時の処置方法
手動ハンドルの 操作性（感触）	スムーズに 回ること	手動操作部	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：14.部品交換のための分解方法)</a>
ボルト類の ゆるみ (目視、触診)	ゆるみの 無いこと	フランジ配管用	配管ボルトを規定トルクで増し締めする <a href="#">(参照：8. 取付方法[フランジ形])</a>
水の侵入 <sup>※1)</sup> (目視)	侵入の 無いこと	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する <a href="#">(参照：14.部品交換のための分解方法)</a>
異物の侵入 <sup>※1)</sup> (目視)	侵入の 無いこと	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する <a href="#">(参照：14.部品交換のための分解方法)</a>
絶縁抵抗の測定 <sup>※1)</sup> (計測)	50MΩ以上 あること	アクチュエータ内	アクチュエータを交換する <a href="#">(参照：14.部品交換のための分解方法)</a>
腐食 または錆び <sup>※1)</sup> (目視)	腐食または 錆びの 無いこと	製品の外観及びアクチュエータ内	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：14.部品交換のための分解方法)</a>
製品損傷	傷、割れ、変 形の無いこと	製品の外観	バルブを配管から取り外してバルブまたはアクチュエータを交換する <a href="#">(参照：P24_14.部品交換のための分解方法)</a>

※1) 異常があると、焼損または火災につながる恐れがある項目です。

12. 不具合の原因と処置方法

不具合現象	予想される原因	対策・処置
手動操作のとき、手動ハンドルが回らない(回せない)	既に全開(または全閉)になっている	手動ハンドルを逆方向に回転させる (参照：8.試運転方法)
	ハンドル操作方向とは逆方向に通電されたままになっている	電源を切ってから手動操作する
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く 参照：9.部品交換のための分解方法)
電動操作で開閉しない	操作盤の電源が切れている	電源を入れてください
	アクチュエータへの結線が外れている	結線状態をもう一度確認してください。 (参照：4.アクチュエータ仕様 の配線図)
	開閉同時に通電されている	
全閉にしても流体が漏れる	ダイヤフラムが磨耗している	ダイヤフラムを交換してください (参照：9.部品交換のための分解方法)
	ダイヤフラムまたはボディにキズがある	該当する部品を交換してください (参照：9.部品交換のための分解方法)
	バルブに異物が噛み込んでいる	分解して異物を取り除いてください (参照：9.部品交換のための分解方法)
	電圧が低い	電圧を確認してください
バルブから流体が漏れる	ボディと電動用ボンネット間のボルトが緩んでいる	規定トルクで締め付けてください (参照：9.部品交換のための分解方法)
アクチュエータは作動しているがバルブが開閉していない	ダイヤフラムまたはボディにキズがある	該当する部品を交換してください (参照：9.部品交換のための分解方法)
	ダイヤフラムとボディの間に異物が噛み込んでいる	分解して異物を取り除いてください (参照：9.部品交換のための分解方法)
	ダイヤフラムが破損している	該当する部品を交換してください (参照：9.部品交換のための分解方法)

## 不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
手動操作のとき、六角レンチが回らない(回せない)	すでに全開(または全閉)になっている	六角レンチを逆方向に回転させる (参照：11.試運転方法)
	ハンドル操作方向とは逆方向に通電されたままになっている	電源を切ってから手動操作する
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：14.部品交換のための分解方法)
	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く
	流体の影響（温度・成分・圧力など）により、バルブのトルクが増加している	使用条件を再確認する (参照：2.取扱い使用上の注意)
電動操作で開閉しない	電源が入っていない	電圧を確認して電源を入れる
	端子台への結線が外れている	直ちに使用を中止し、結線状態を再確認する (参照：7.アクチュエータ仕様 の配線図)
	ケーブルまたはアクチュエータ内の結線が断線している	ケーブルを取り替える、またはアクチュエータを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
	開閉同時通電になっている、または端子台への結線が間違っている	直ちに使用を中止し、結線状態を再確認する (参照：7.アクチュエータ仕様 の配線図)
	電源電圧が異なっている	テスターで電圧を確認して正しい電圧にする
	電源電圧が低い	テスターで電圧を確認して正しい電圧にする
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：14.部品交換のための分解方法)

不具合の原因と処置方法（続き）



不具合現象	予想される原因	対策・処置
電動操作で開閉しない	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く
	流体の影響（温度・成分・圧力など）により、バルブのトルクが増加している	使用条件を再確認する (参照：P2_2.取扱い使用上の注意)
	サーマルプロテクタが作動している	直ちに使用を中止し、周囲温度または開閉頻度を下げる
	コンデンサが焼損（パンク）している	直ちに使用を中止し、アクチュエータを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
	アクチュエータ内に水や異物が侵入してショートしている	直ちに使用を中止し、アクチュエータを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
	アクチュエータの外部腐食の影響で動かない	直ちに使用を中止し、アクチュエータを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
	アクチュエータの絶縁抵抗が落ちている	直ちに使用を中止し、絶縁抵抗値を確認してアクチュエータを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
全閉にしても流体が漏れる（内部リーク）	流体圧力が高い	最高許容圧力以下で使用する (参照：14.部品交換のための分解方法)
	シートまたはボールに摩耗またはキズがある	バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
	部品が欠落している	バルブを配管から取り外して該当部品を取り付ける、またはバルブを交換する (参照：14.部品交換のための分解方法)
	バルブに異物が噛み込んでいる	バルブを配管から取り外して分解し、異物を取り除く (参照：14.部品交換のための分解方法)
	バルブに配管応力が加わっている	配管応力を取り除く



## 不具合の原因と処置方法（続き）

不具合現象	予想される原因	対策・処置
バルブから流体が漏れる (外部リーク)	バルブに亀裂または破損がある	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してバルブを交換する <b>(参照：4.部品交換のための分解方法)</b>
アクチュエータは作動しているがバルブが開閉していない	ダイヤフラムが破損している	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外して該当部品を交換する、またはバルブを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
アクチュエータから異臭、発熱、または発煙がある	アクチュエータが故障している	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
	端子台への結線が間違っている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
	アクチュエータに過電流が流れている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
	アクチュエータが落雷の影響を受けている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
アクチュエータが腐食している	水や薬液などの液体を浴びている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してアクチュエータを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>
バルブが腐食または変形している	水や薬液などの液体を浴びている	直ちに使用を中止し、バルブを配管から取り外してバルブを交換する <b>(参照：14.部品交換のための分解方法)</b>

## 13. 残材・廃材の処理方法

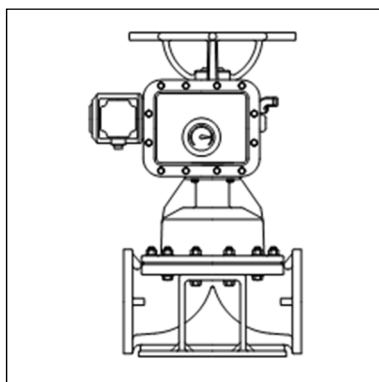
 <b>警告</b>	
 <b>強制</b>	<p>燃やすと有毒ガスが発生します。</p> <p>▶ 製品または部品を廃棄される場合は、各自治体の指針にしたがい、廃棄専門業者に処理をお願いしてください。</p>

**お問合せ先**

この製品に関するお問い合わせは、最寄りの販売店、弊社営業所、または弊社 web サイトの「お問い合わせ」までご連絡ください。

**[取扱説明書]**

ダイヤフラムバルブ 72 型 電動式 S 型  
200、250mm  
(自動バルブ)



<https://www.asahi-yukizai.co.jp/>

本書内容につきましては、予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

**2024.04**